

年金と投資に関する意識調査結果

令和4年度 調査研究報告書

令和4（2022）年8月

公益財団法人 年金シニアプラン総合研究機構

〒108-0074 東京都港区高輪1丁目3番13号 NBF 高輪ビル

TEL:03-5793-9411

FAX:03-5793-9413

URL:<http://www.nensoken.or.jp>

目 次

はじめに	1
1 アンケート調査結果のまとめ	2
1-1 今回のアンケート結果の要約	2
1-1-1 ESG 投資、CSR、コーポレート・ガバナンスの認知度	2
1-1-2 公的年金積立金の市場運用の認知度	2
1-1-3 年金資金による ESG 投資に関する一般国民の意向	3
1-1-4 年金資金による ESG 投資に関する諸論点について	4
1-1-5 企業年金の ESG 投資に関する諸論点について	5
1-1-6 CSR に対する評価	5
1-1-7 年金資金による ESG 投資に関する今後の方向	7
1-1-8 年金資金によるインパクト投資の認知度と今後の方向性	7
1-2 前回調査との比較の概要	8
1-2-1 ESG 投資など及び公的年金資金の市場運用の認知度	9
1-2-2 年金資金による ESG 投資に関する一般国民の意向	9
1-2-3 ESG 投資に関する諸論点について	10
1-2-4 企業年金の ESG 投資に関する諸論点について	10
1-2-5 CSR に対する評価	11
1-3 今回調査の全体的なまとめ	11
1-3-1 ESG 投資及び公的年金資金の市場運用の認知度に関して	11
1-3-2 前回調査との比較に基づく一般国民の ESG 投資意向について	12
1-3-3 本調査を通じた ESG 投資に対する認識の変化	12
2 調査計画の概要	13
2-1 調査の目的	13
2-2 調査対象	13
2-3 調査方法	13
2-4 調査対象	14
2-5 調査票	14
3 今回調査の集計結果	34
4 前回調査との比較	73
4-1 年齢 10 歳階層別、性別回答者数	73
4-2 前回調査と質問が重なる項目についての集計結果の比較	74
参考文献	91

調査研究体制

研究スタッフ	西岡 隆	審議役
	山本 進	前審議役
	長野 誠治	主任研究員
	福山 圭一	上席研究員
	宇野 裕	特任研究員
	杉田 健	特任研究員
	三木 隆二郎	特任研究員
	矢部 信	特任研究員

アドバイザー	板谷 英彦	専務理事
--------	-------	------

はじめに

2011年度から2013年度にかけて行った「日本の年金資金におけるESG投資のあり方についての研究」（文科省所管の科学研究費による助成研究）の一環として、2012年3月に、国民皆年金の下にある国民一般に対し、その環境・社会・企業のガバナンスに関する関心の程度、年金運用におけるESG投資に関する意向などを調査することにより、今後の日本の年金資金におけるESG投資のあり方を検討するための基礎情報を得ることを目的として、一般国民に対するESG投資に関するアンケート調査を実施した。

その後、GPIFによるPRI署名やスチュワードシップ・コード及びコーポレート・ガバナンス・コードの策定など、ESG投資をめぐる状況は大きく変化し、公的年金積立金の資金運用においては、同投資に積極的に取り組むようになってきている。年金資金は国民が拠出した国民の老後生活のための資金であるので、その資金運用についても大筋で国民の理解と支持が必要であると考えられる。

また、2016年12月に成立した公的年金制度の持続可能性の向上を図るための国民年金法等の一部を改正する法律においては、「検討」として、「政府は、GPIFの運用の状況その他GPIF法の施行の状況、その運用についての国民の意識、運用会社のスチュワードシップ活動の動向等を勘案し、運用の在り方について検討を加え、必要に応じ、施行後三年を目途に、必要な措置を講ずる」旨が規定された。

そこで一般国民の意識の状況等を把握することにより今後の日本の年金資金におけるESG投資発展のための基礎情報を得ることを目的として、2012年3月に行った初回調査のフォローアップのためのアンケート調査を5年が経過する2017年3月に第2回調査として行った。

さらに5年が経過したのを機に今回、第3回調査を実施した。今回はESG投資だけでなく、SDGsやインパクト投資についての意識についての質問を新設した。加えて個人の投資の仕方や年金の積立金を株式で運用することに対する意識についても、関連する質問を新設した。これに伴い、調査のタイトルを「年金と投資に関する意識調査」と改めている。なお、過去調査との比較は1-2で詳述するが、前回（第2回）調査で割付を前々回（第1回）調査から大幅に変更した¹。今回調査では前回調査の割付を踏襲したことから、本稿では第2回（前回）調査との比較のみを行った。

本稿が日本におけるESG投資の発展にいささかでも貢献できれば幸いである。

¹ 調査対象を第1回調査では20歳～59歳の一般国民としていたが、第2回調査以降は20歳以上の一般国民としている。

1. アンケート調査結果のまとめ

1-1 今回のアンケート結果の要約

今回の調査は、第1回及び第2回調査と同様に、ESG投資に関する一般国民の意識を調査することに主眼を置いた。ただし、ESG投資が一般人にはなじみがなく、いきなりこの質問をしてもほとんど内容のある回答が得られないと考えられたため、環境・社会・企業のガバナンスに関する具体的事例を挙げた質問を繰り返してESG投資に関する認識を持ってもらい、また、ESG投資をめぐる最近の状況に関する質問を行い、そのような状況認識をもってもらった上で、年金運用におけるESG投資に関連した質問をするという設問の流れとした。

今回の調査は、前回調査同様、ネットアンケートにより、調査会社に登録しているモニターから回答を得る方法で行った。一般に、ネットアンケートには、回答者に高学歴バイアスがあるといわれている。前回調査では学歴別の区分をしなかったが、高学歴バイアスがあることを認識した上で、それを調整するためにウエイト補正を行った。それに対して、今回は、調査実施段階で学歴別の区分することにした²。それ以外の性別、年齢層別、居住地域別の区分については前回調査と同じ扱いである。

以下は、アンケート結果の単純集計による結果を速報としてとりまとめたものであり、得られた結果をさらに深堀していく作業については、別に委ねることとする。

1-1-1 ESG投資、CSR、コーポレート・ガバナンスの認知度

ESG投資、社会的責任投資（SRI）、企業の社会的責任（CSR）及びコーポレート・ガバナンスについて、認知度を聞いた（問14）。この回答について、「よく知っていた」と「まあ知っていた」を合計したもので見ると、ESG投資は10.5%、CSRは16.7%、コーポレート・ガバナンスは19.8%であった。なお、これに「言葉だけは聞いたことはある」も加えると、ESG投資は30.7%、CSRは37.4%、コーポレート・ガバナンスは44.6%となる。

しかし、これらの中で最も高いコーポレート・ガバナンスでも、言葉を聞いたことがあった者が半数に届かない。一般国民の認知度という観点からはまだまだといえよう。

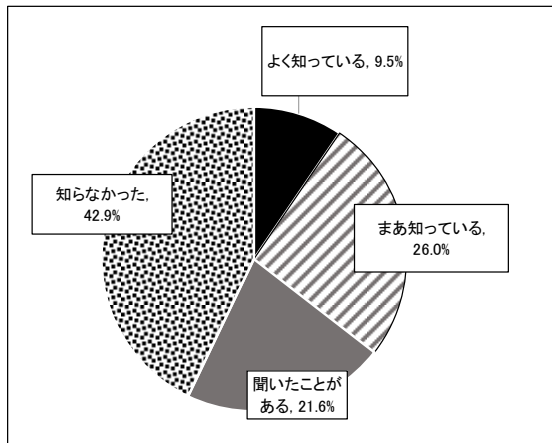
1-1-2 公的年金積立金の市場運用の認知度

公的年金の積立金が株式や債券などに投資されて運用されていることに関する認知度（問16）は図表1-1のとおりであった。「よく知っている」と「まあ知っている」を合わせて35.5%であった。これに「聞いたことはある」を加えると、57.1%であり、公的年金積立金が市場運用されていることを「知らない」とする回答が42.9%あった。

² 予備調査の問3の最終学歴で「短期大学・高専」「大学・大学院」「専門学校・専修学校」と回答した者を高学歴者、「中学校」「高等学校」と回答した者を高学歴者以外とした。

また、男女差がかなりある。男性に限ると、「よく知っている」と「まあ知っている」の合計が 44.2%に対し、女性は 27.5%であった。

〔図表 1-1〕 公的年金積立金の市場運用の認知度

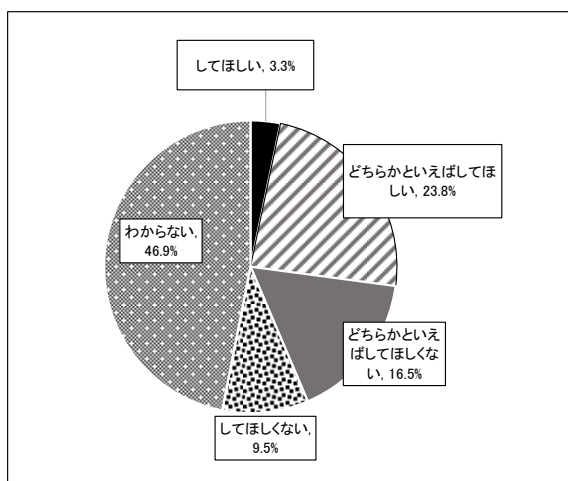


1-1-3 年金資金による ESG 投資に関する一般国民の意向

公的年金による ESG 投資をしてほしいかどうかに関する一般国民の意向（問 21）については、図表 1-2³のような結果であった。

「してほしい」と「どちらかといえばしてほしい」を積極、「どちらかといえばしてほしくない」と「してほしくない」を消極とすると、積極が 27.1%、消極が 26.0%と、積極が消極をわずかに上回った。ただし、「わからない」という意向不明が 46.9%あった⁴。

〔図表 1-2〕 公的年金による ESG 投資の意向



企業年金に対する希望として ESG 投資をしてほしいかどうかに関する一般国民の意向

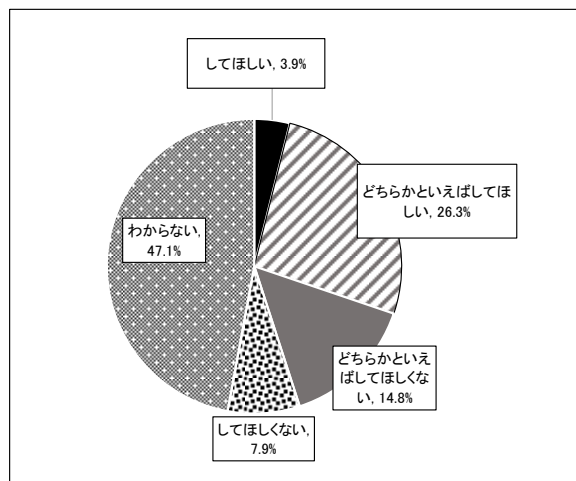
³ 端数を四捨五入している。以下同じ理由で合計が 100%にならない図表がある。

⁴ 積極と消極を比較する形で記述しているが、「わからない」等の回答が相当数あることには留意が必要（以下の記述に対しても同様）。

(問 23) は、図表 1-3 のとおりであった。

公的年金と同様に積極・消極を集計すると、積極が 30.2%、消極が 22.7%⁵と、公的年金以上に積極が消極を上回った。ただし、意向不明が 47.1%と公的年金と同程度に上った。

〔図表 1-3〕 企業年金による ESG 投資の意向



以上、年金資金による ESG 投資の意向に関しては、積極が消極を上回っている。しかし、それ以上に注目すべきは、意向不明者が 4 割以上を占めたことである。また、意向を表明した者も「どちらかといえば」が多く、このことから、大半の国民が年金資金による ESG 投資の意向に関して必ずしも明確な認識を持っていないことがうかがわれる。

1-1-4 年金資金による ESG 投資に関する諸論点について

公的年金積立金で ESG 投資をすることについて様々な観点から意向を聞いた (問 20)。問 20 の (1) から (3) までは、「そう思う」が ESG 投資に前向きであるのに対し、問 20 の (4) からは反転し、「そう思う」は ESG 投資に後ろ向きな選択肢となっている。回答結果について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を肯定、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」は否定とすると次のとおりである。

まず、「自分や家族の払った保険料は、環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどの取り組みを支援するよう投資してほしい」(問 20 の (1)) については、肯定 35.0%、否定 20.5%であった。「自分や家族の払った保険料は、環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどに後ろ向きの企業には投資しないようにしてほしい」(問 20 の (2)) は、肯定 39.1%、否定 17.4%であった。「年金のような長期資金では、環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどを考慮して投資先を選択することは合理的だ」(問 20 の (3)) は、肯定 34.8%、否定 18.0%であった。

⁵ 端数を含めて合計して四捨五入している。以下同じ理由でグラフと本文の数値が合わないものがある。

以下は反転するが、「年金の積立金は将来の年金の支払いだけを考慮して運用すべきであり、環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどを考えることは、これに関係がないので、慎重であるべきだ」（問 20 の（4））については、肯定 27.0%、否定 27.3%であった。「環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどを考慮して投資先を選定しても、運用成績に結びつかない」（問 20 の（5））は、肯定 23.4%、否定 26.4%であった。「公的な資金は企業経営に影響を与えるべきではない」（問 20 の（6））は、肯定 29.4%、否定 24.2%であった。

概ね ESG 投資に前向きな回答が勝る結果となった。ただし、1-3 で指摘したのと同様に、「わからない」がそれぞれで 4 割以上あり、また、「どちらかといえば」が多い状況は変わらない。

1-1-5 企業年金の ESG 投資に関する諸論点について

企業年金による ESG 投資についても様々な観点から意向を聞いた（問 22）。これについても、公的年金の場合と同様、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を肯定、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」は否定とすると次のとおりである。

「企業年金の積立金運用では、環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどの取り組みを支援すべきだ」（問 22 の（1））については、肯定 33.1%、否定 20.3%であった。「企業年金の積立金は、環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどに後ろ向きの企業に投資されないようにすべきだ」（問 22 の（2））については、肯定 36.4%、否定 18.5%であった。「企業年金の積立金は、主に企業が拠出したものなので、その企業の社会的責任（CSR）に関する方針に沿った運用をすべきだ」（問 22 の（3））については、肯定 34.8%、否定 18.2%であった。

「企業年金の積立金は、将来の年金の支払いだけを考慮して運用すべきであり、環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどを考えることは、労使から明確な意思表示がない限り、慎重であるべきだ」（問 22 の（4））については、肯定 29.8%、否定 23.3%であった。「企業年金の積立金は、企業の労働者の老後の生活に充てられる資金なので、運用のし方も労働者の意見をよく聞いて決めるべきだ」（問 22 の（5））については、肯定 38.9%、否定 17.4%であった。「企業年金の積立金は、民間の資金なので、政府が運用に口出しすべきではない」（問 22 の（6））については、肯定 33.5%、否定 21.9%であった。

企業年金に関しては、全ての質問で肯定が否定を上回った。ただし、「わからない」がそれぞれで 4 割以上あり、また、「どちらかといえば」が多かった。

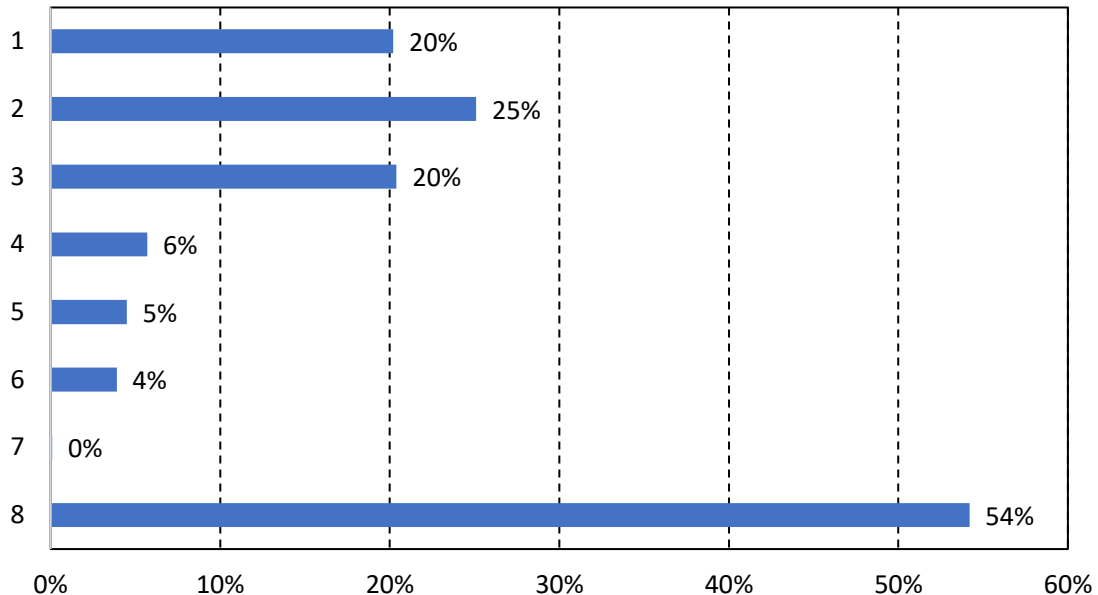
1-1-6 CSR に対する評価

CSR についての考えを聞いた（問 15）。その結果は図表 1-4 のとおりであった。

回答肢のうち 1~3 が CSR に肯定的、4~6 は否定的なものである。両者を比較すると肯定的なものがかかなり上回っている。国民全体として CSR を好意的に受け止めているものということができる。

ただし、「CSR についてはよくわからない」が 54.2%あった。半数以上は肯定も否定もしていないことに留意が必要である。なお、本問は複数回答の質問だが、CSR についてよくわからないとしながら何らかの考えを示したものがごく少数（0.1%）あった。

〔図表 1-4〕 CSR についての考え方



1. CSR は企業経営が適切に行われるための基本であり、企業は率先して取り組むべきだ。
2. CSR に積極的に取り組んでいる企業には好感が持てる。
3. 多くの企業が CSR に取り組めば、経済全体の発展や成長にもつながる。
4. 企業は利益を追求することが目的なので、CSR は法令や規制の範囲でやればよい。
5. CSR は企業のイメージアップ活動に過ぎないので、特に評価する必要はない。
6. CSR に取り組む余裕があるなら、製品やサービスの価格を下げてほしい。
7. その他
8. CSR についてはよくわからない。

株主が投資先企業と建設的な対話をする事についての考えを聞いた（問 17 の（3））。好意的な回答が 34.3%、否定的な回答が 23.8%、「わからない」などが 41.9%であった。

PRI の認知度について聞いた（問 19 の（1））。「よく知っている」と「まあ知っている」を合わせて 8.4%であった。これに「聞いたことはある」を加えても 20.6%であり、PRI のことを「知らない」とする回答が 79.4%に及んだ。PRI の考えや取り組みについて聞いた（問 19 の（2））好意的な回答が 26.8%、否定的な回答が 11.6%、「わからない」が 61.5%であった。

以上についてはいずれも好意的な回答が否定的な回答を大きく上回った。ただし、概ね

半数が「わからない」としている。

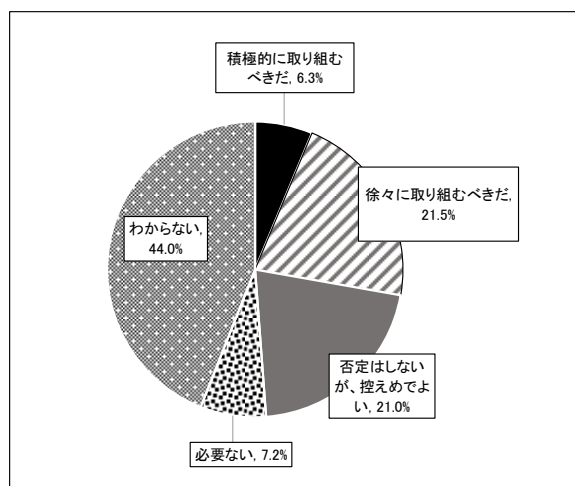
1-1-7 年金資金による ESG 投資に関する今後の方向

確定拠出年金で投資の指図をする立場になった場合に、自身が ESG 投資をすることについて聞いた（問 24）。「積極的にしたい」、「少しはしたい」という前向きな回答が 30.2%、「あまりしたくない」、「したくない」という後ろ向きの回答が 27.3%、「わからない」が 42.4%であった。

公的年金・企業年金を通じた日本の年金資金による ESG 投資について、これからどのようにしていくべきか聞いた（問 25）結果は図表 1-5 のとおりであった。

「積極的に取り組むべきだ」の回答が 6.3%、「徐々に取り組んでいくべきだ」が 21.5%、「否定はしないが、控えめでよい」が 21.0%、「必要ない」が 7.2%、「わからない」が 44.0%であった。

〔図表 1-5〕 ESG 投資の今後の方向

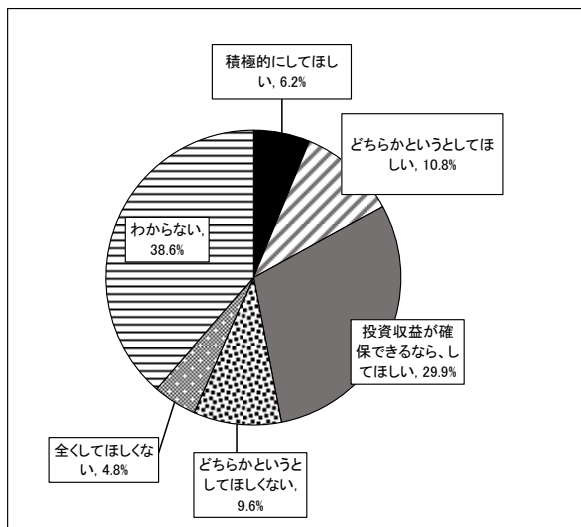


1-1-8 年金資金によるインパクト投資の認知度と今後の方向性

今回、新たな調査項目として「インパクト投資」についてアンケートを行った（問 27）。まず、認知度については、「よく知っていた」1.2%、「まあ知っていた」6.6%に対して、78.9%が「知らなかった」であり、まだ認知度が低い状況であった。しかし、説明を付した上で、「インパクト投資」をどう思うかを尋ねると、「とてもよい」4.7%、「まあよい」20.0%と好印象を持つ者が比較的多いことがわかった。

年金積立金で、環境問題や社会問題の解決を考慮することについては、公的年金、企業年金、確定拠出年金のそれぞれで尋ねてみた結果は、いずれも、「積極的にしてほしい」が 5~6%、「どちらかというとしてほしい」10~11%、「投資収益が確保できるのなら、してほしい」が 30~32%で同程度となった。

〔図表 1-6〕 公的年金積立金によるインパクト投資の今後の方向



1-2 前回調査との比較の概要

今回の第 3 回調査は過去の調査のフォローアップ調査であり、質問内容に共通するものが多い。そこで、これらのうち主なものについて、前回調査（第 2 回）と今回調査（第 3 回）の結果を比較し、検討する。

なお、第 1 回調査については年金加入年齢にある 20～59 歳の者が対象であった。このため、第 2 回調査時には調査の回答者のうち、20～59 歳の者を抜き出して、第 1 回調査と比較を行った。第 1 回調査と第 2 回調査では調査設計上の違いにより、年金に関する認識があいまいな者が第 1 回調査では少なく、第 2 回調査では多いことが寄与している可能性が指摘された。⁶

今回（第 3 回）調査は前回調査（第 2 回）と同様に年齢と居住地だけで割り付けており、調査の安定性は高まったと考えられる。

⁶ 年金シニアプラン総合研究機構、平成 29 年度研究報告書「年金資金による ESG 投資に対する一般国民の意識に関する調査研究」第 3 章第 2 節参照。

1-2-1 ESG投資など及び公的年金資金の市場運用の認知度

ESG投資、CSR（企業の社会的責任）、コーポレート・ガバナンスの認知度について、「よく知っていた」と「まあ知っていた」を合計したものでみると、ESG投資は5.1%から10.5%へと増加した一方、CSRは16.3%から16.7%とほぼ横ばい、コーポレート・ガバナンスは19.8%から18.4%へと小幅減少した。これに「言葉だけは聞いたことがある」⁷も加えると、ESG投資は14.3%から30.7%へ大幅に増加し、CSRは34.0%から37.4%へと、コーポレート・ガバナンスは42.4%から44.6%へといずれも小幅増加した。ESG投資、CSR及びコーポレート・ガバナンスの認知度はこの5年間で高まってきていることがうかがえる。

公的年金の積立金が株式や債券などに投資されて運用されていることに関する認知度については、「よく知っている」と「まあ知っている」を合わせて39.6%であったものが35.5%へ小幅減少、これに「聞いたことはある」を加えても、62.4%から57.1%へ減少した。公的年金積立金が市場運用されていることを「知らなかった」とする回答割合が37.4%から42.9%に増加している。

市場運用の認知度は幾分後退している。5年前に比べると、運用状況は世界的な大規模金融緩和の影響で全般に好調であった。従って、あまり認識する必要がなかったということかもしれない。

1-2-2 年金資金によるESG投資に関する一般国民の意向

公的年金の積立金によるESG投資を「してほしい」と明確に積極的な取り組みを求める意見は4.6%から3.3%へ小幅減少した。一方、「してほしくない」とはっきりと消極的な意見を表明したのも8.5%から9.5%と小幅増加した。

また、「してほしい」と「どちらかといえばしてほしい」を積極、「どちらかといえばしてほしくない」と「してほしくない」を消極とすると、積極が31.5%から27.1%へ小幅減少する一方、消極が24.1%から26.0%へと小幅増加した。「わからない」の不明は44.4%から46.9%へ小幅に増加した。

次に、企業年金の積立金によるESG投資については、「してほしい」は4.9%から5.1%で、また「してほしくない」が7.1%から7.4%でほぼ変わらない。積極・消極については、積極が33.6%から33.1%へ、消極が19.9%から20.3%へと両者ともに変わらない。「わからない」の不明は46.6%で横ばいであった。

前回と今回では調査客体が異なり、単純な比較で明確な違いを述べることは困難であるが、公的年金では積極がやや減少し、消極がやや増加、企業年金では、積極、消極ともに大きな変化はみられなかった。

⁷ 前回調査では「聞いたことはあった」という選択肢であった。

1-2-3 ESG 投資に関する諸論点について

以下の公的年金の積立金で ESG 投資をすることについて様々な観点からの意向についても、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を賛成、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」は反対とする。賛否の比較を行うと、次のとおりである。

まず、ESG などの取り組みを支援するようしてほしい、という点については、賛成が 34.8%から 35.0%、また反対も 20.4%から 20.5%と変化はなく、賛成が反対を上回る安定的な状態が続いている。ESG などに後ろ向きの企業に投資しないようにしてほしい、という点については、賛成が 39.5%から 34.8%と小幅減、また反対も 17.6%から 17.4%と変化はない。ESG を考慮して投資先を選択することは合理的、という点については、賛成が 34.1%で変化なく、反対が 20.1%から 18.0%へと小幅に減り、賛成が反対を上回る安定的な状況が続いている。

以下は反転し、否定的な方向の問いになるが、年金の積立金は将来の年金の支払いのためだけを考えて運用すべきであり、ESG などを考えることはこれに関係がないので慎重であるべきだ、という点については、賛成が 27.8%から 27.0%、反対が 28.3%から 27.3%と、ほとんど変化がなかった。環境や社会問題、コーポレート・ガバナンスに考慮して投資先を選定することは投資成績に結びつかない、という点は、賛成が 23.9%から 23.4%へ、反対が 26.5%から 26.4%と、いずれも変化がなかった。公的な資金は企業経営に影響を与えるべきではない、という点については、賛成が 32.4%から 29.2%へ小幅に減ったが、反対が 24.4%から 24.2%と変化がなく、賛成が反対を上回る状況が続いている。

ESG 投資について肯定的な考えに対する賛成が反対を上回る状況が続いており、その差分については変化がみられない。否定的な考えに対する賛否はほとんど変わらない。ただし、公的な資金は企業経営に影響を与えるべきではない、というエンゲージメントなどに否定的とも受け止められる考えについては、賛成が減少したことから反対との差分が縮小した。

1-2-4 企業年金の ESG 投資に関する諸論点について

企業年金の積立金運用についても、公的年金と同様、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を賛成、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」は反対として、比較を行う。

ESG などの取り組みを支援する、という観点については、賛成が 33.6%から 33.1%、反対が 19.9%から 20.3%と変化はみられない。ESG などに後ろ向きの企業に投資しないよう、という観点からも、賛成が 36.8%から 36.4%、反対が 17.6%から 18.2%とほぼ変化はみられない。

企業年金の積立金運用は将来の年金の支払いのためだけを考えて運用すべきであり、ESG などを考えることは労使から明確な意思表示がない限り、慎重であるべき、という観点については、賛成が 31.0%から 29.8%へ幾分減り、反対が 23.5%から 23.3%とほぼ変化はない。企業の労働者の老後の生活に充てられる資金なので、労働者の意見をよく聞いて

で決めるべき、という観点については、賛成が 40.7%から 38.9%へ幾分減り、反対が 16.2%から 17.4%へとわずかに増えた。

1-2-5 CSR に対する評価

CSR についての考えについては、幾分後退したようにみえる。

CSR に肯定的な、「CSR は企業経営が適切に行われるための基本であり、企業は率先して取り組むべきだ」は 26.2%から 20.2%に減少、「CSR に積極的に取り組んでいる企業には好感が持てる」は 29.6%から 25.1%に小幅減少、「多くの企業が CSR に取り組めば、経済全体の成長や発展にもつながる」は 23.3%から 20.4%に小幅に減少した。

CSR に否定的な、「企業は利益を追求することが目的なので、CSR は法令や規制の範囲でやればよい」は 5.3%から 5.7%でほぼ変わらず、「CSR は企業のイメージアップ活動に過ぎないので、特に評価する必要はない」は 4.0%から 4.5%とほぼ変わらず、「CSR に取り組む余裕があるなら、製品やサービスの価格を下げしてほしい」は 2.9%から 3.9%に幾分増加した。

このように、CSR に肯定的な回答は減少し、否定的な意見が幾分増加したが、「CSR についてはよくわからない」が 53.9%から 54.2%と相変わらず過半を占めた。

1-3 今回調査の全体的なまとめ

1-3-1 ESG 投資及び公的年金資金の市場運用の認知度に関して

前回調査の 5 年前と比べると ESG 投資を取り巻く状況は大きく変わり、特に公的年金積立金による ESG 投資が始まって 5 年になる。

しかし、今回の調査によると ESG 投資について知っていたのは 10.5%、これに「言葉だけは聞いたことがある」を加えると 30.7%であった。本調査結果は加入者や受給者という当事者である国民の意識がまだまだ十分に定着していない状況を示している。ESG 投資は近年着手された投資手法であり、一般国民の多くがまだ知らないというのは必ずしも不自然ではない⁸。

しかし、年金積立金が市場運用されていることを知らない者が 4 割超えることは問題である。賦課方式で運営している公的年金であっても、一定規模の積立金を保有し、将来の財政運営に活用することになっていることを国民に伝えていくことは重要である⁹。調査時点では、公的年金積立金の市場運用が始まった 1986 年度から 36 年、自主運用が開始された 2001 年度からでも 21 年がほぼ経過していた。それでもこのような状況である。

公的年金の積立金は公的年金に加入する全ての国民が支払った年金保険料の一部を積み

⁸ 今回調査において一般国民の認知度に関してはインパクト投資で 7.8%、ESG 投資でも 10.5%にとどまった一方で、SDGs への関心については 4 割を超えておりインパクト投資や ESG 投資を遙かに上回る高い認知度を示したことは注目に値する。

⁹ 厚生労働省においても、「いっしょに検証！公的年金～年金の仕組みと将来～」としてマンガで年金財政の仕組みを周知する取り組みなどを行っている。（参考：<https://www.mhlw.go.jp/nenkinenshou/>）

立てたものである。当事者である国民の多くが、それがどのように運用されているかを知ることが重要である。年金積立金の運用は長期運用である。しかし、市場運用について大方の国民の理解と支持がなければ、長期継続的に運用できる環境条件はいつまでたっても整わないであろう。今回の調査結果は、積立金の市場運用について一般国民に対する普及啓発を促進することの必要性を強く示唆している。

ESG 投資も投資である以上収益の確保が目的である。このために、環境問題や社会的課題、適切な企業統治に取り組む投資先企業に投資をすることを通じて長期的なリターンの向上を図るという投資手法である。この考え方の背後には、投資を通じて環境や社会を良くし、企業経営を適正なものにするという理念がある。

一般の日本人にとって「投資」というと、難しい、リスクが大きい、ギャンブルと大差ないといったイメージが先行し、積極的にこれに向き合おうとする意欲がわきにくいかもしれない。しかし、長期的にみて、環境や社会の改善、企業経営の適正化に結びつくという側面があることが理解されれば、そのイメージもポジティブなものに変わっていくのではないだろうか。

公的年金積立金の株式運用には依然として抵抗感を抱く向きもあるが、ESG 投資はこの解消に資することになる可能性がある。また、積立金の運用については、これまでマスコミ報道も含め短期の運用成績だけに注目が集まりがちであるが、ESG 投資への理解が長期の運用に目が向くきっかけになるかもしれない。

1-3-2 前回調査との比較に基づく一般国民の ESG 投資意向について

ESG 投資に関する意向についての前回調査との比較では、今回調査でも積極が消極より多いものの、半数は不明という状況であった。また今回調査では小幅ではあるが、積極が減少し、消極及び不明が増加した。この傾向は公的年金、企業年金を問わずみられる傾向である。このように、国民全体としては認識が不明な者がまだまだ多いことが明らかになっており、様々な属性でクロス集計を行うなど分析を深めることにより、こうした状況になっている背景を探っていくことが重要と考える。

1-3-3 本調査を通じた ESG 投資に対する認識の変化

ESG 投資について知っていたのは 10.5%、これに「言葉だけは聞いたことはある」を加えると 30.7%であったことは先に述べた。69.4%の者は全く知らなかったのである¹⁰。

本調査では、環境・社会・企業のガバナンスに関する具体的事例を挙げた質問を繰り返して ESG 投資に関するイメージを持ってもらい、また、ESG 投資をめぐる最近の状況に関する質問を行い、そのような状況認識を持ってもらった上で、年金資金による ESG 投資に関する質問をするという設問の流れとした。その結果、公的年金に対する ESG 投資の意向について、「わからない」とした者が 44.5%いたが、55.5%の者は何らかの意向を表明

¹⁰ 四捨五入の関係で合計は 100%にならない。

した。

ESG 投資について何も知らなければ、その投資の意向については「わからない」としか答えようがないであろう。しかし、この調査に回答する過程で ESG 投資に対する回答者なりの知識やイメージが形成され、「わからない」と回答するはずの者が 69.4%から 44.5%へと3分の2に減少した。

このことは、本調査が ESG 投資に関する何らかの「教育効果」を有することを示すものといえるであろう。

ESG 投資の今後の方向について聞いた問でも「わからない」が前回調査に比べて大幅減少したが、依然半数近くを占める状況は続いている。公的年金積立金による ESG 投資が始まって5年近くになるが、できるだけ多くの国民に理解が広まることを期待したい。

2 調査計画の概要

2-1 調査の目的

前回調査から5年を経過する2022年において、わが国の年金資金運用の健全な発展のための基礎情報を得ることを目的として、ESG 投資に関連する事項を含め、年金と投資に関する一般国民の意識を把握するための調査を行う。

2-2 調査対象

前回調査同様、20歳以上の男女を対象とする。

2-3 調査方法

インターネット調査による。十分な数のモニターを有する実績のある複数の調査会社から見積りを徴し、最も低廉な料金を提示した社に調査を委託する。

(1) 調査対象地域：全国

(2) 調査対象者：20歳以上の者4,500人

(3) 調査実施時期：2022年6月13日から15日

(4) 回答者の選定方法：調査会社のモニターに対し、性、年齢、居住地域（都道府県）、最終学歴の予備調査を行い、性別、年齢層別（年齢10歳きざみ）、居住地域別（首都圏、東海近畿、その他）及び学歴別にあらかじめ定めた数（別紙1参照）に達するまで本調査の回答を回収する。

(5) 回収サンプル数（割付）の定め方：性別、年齢層別、居住地域別及び学歴別の回収サンプル数は、総サンプル数4,500を2020年国勢調査による人口に基づき配分した。ただし、60～69歳及び70歳以上のサンプルについては、抽出率が59歳以下のそれぞれ2分の1、3分の1となるように回収サンプル数を定めることとし、集計時に回答者数を2倍ないし3倍にする。

なお、学歴別については、前回調査ではサンプル数では区分せず調査項目で把握する

方法をとったが、インターネット調査では高学歴バイアスが生じ得るため、今回はサンプルの段階で区分することにした。それ以外の性別、年齢層別、居住地域別の区分については前回調査と同じ扱いである。

2-4 調査対象

第1回及び第2回調査と同様に、ESG投資に関する一般国民の意識を調査することに主眼を置いた。ただし、ESG投資が一般人にはなじみがなく、いきなりこの質問をしてもほとんど内容のある回答が得られないと考えられたため、環境・社会・企業のガバナンスに関する具体的事例を挙げた質問を繰り返してESG投資に関する認識を持ってもらい、また、ESG投資をめぐる最近の状況に関する質問を行い、そのような状況認識をもってもらった上で、年金運用におけるESG投資に関連した質問をするという設問の流れとした。

また、ESG投資だけでなく、SDGsやインパクト投資についての意識についての質問を新設した。さらに、個人の投資の仕方や年金の積立金を株式で運用することに対する意識についても、関連する質問を新設した。なお、これに伴い、調査のタイトルを「年金と投資に関する意識調査」と改めている。

2-5 調査票

(別紙2参照)

(別紙1) 回収サンプル数 (割付)

居住地域⇒		首都圏		東海近畿		その他		合計
性	最終学歴⇒ 年齢	高学歴者以 外	高学歴者	高学歴者以 外	高学歴者	高学歴者以 外	高学歴者	
男	20～29歳	59	61	59	43	86	51	359
	30～39歳	40	94	47	66	81	83	411
	40～49歳	64	105	72	76	119	96	532
	50～59歳	62	90	71	63	116	77	479
	60～69歳	26	31	33	26	69	36	221
	70歳～	36	23	47	15	80	19	220
女	20～29歳	48	69	48	51	68	61	345
	30～39歳	35	94	40	71	70	91	401
	40～49歳	55	107	62	87	104	108	523
	50～59歳	64	80	73	65	121	79	482
	60～69歳	32	26	39	23	79	32	231
	70歳～	61	15	72	11	123	14	296
合計		582	795	663	597	1,116	747	4,500

注1 性は、予備調査__問1の回答に基づく。

注2 年齢は、予備調査__問2の回答に基づく。

注3 最終学歴は、予備調査__問3の回答に基づく。

高学歴者以外：「1 中学校」、「2 高等学校」

高学歴者：「3 短期大学・高専」、「4 大学・大学院」、「5 専門学校・専修学校」

なお、「6 その他」と回答した者¹¹はサンプルに選定しない。

注4 居住地域は、予備調査__問4の回答に基づく。

首都圏：東京、千葉、埼玉、神奈川の4都県

東海近畿：愛知、岐阜、静岡、三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山の10府県

その他：首都圏及び東海近畿以外の33道県

¹¹ 最終学歴が小学校である者や未就学者が想定される。2020年国勢調査によれば、20歳以上での該当者数はそれぞれ803,991人、92,695人である。

(別紙 2)

年金と投資に関する意識調査

《予備調査》

問 1 あなたの性別をお教えてください。

【単一回答】

- 1 男
- 2 女

問 2 あなたの今の年齢をお教えてください。

【単一回答】

() 歳

問 3 あなたが最後に卒業された学校は、次のどれですか。

【単一回答】

- 1 中学校
- 2 高等学校
- 3 短期大学・高専
- 4 大学・大学院
- 5 専門学校・専修学校
- 6 その他 ()

問 4 お住まいの都道府県をお教えてください。

【単一回答】

(プルダウン・メニューから選択)

※ 予定回答サンプル数に達したら、ここで調査は終了

《本調査》

この調査は、公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構の研究チームが、公益的な観点から学術研究のために実施するものです。是非積極的なご協力をお願いいたします。

問 1 あなたのご職業をおたずねします。次の中から最も当てはまるものを 1 つ選んでください。

【単一回答】

- 1 自営業・自由業・家族従業員
- 2 会社・団体の経営者または役員
- 3 会社・団体の正規職員
- 4 公務員
- 5 契約社員・派遣社員・嘱託
- 6 パート・アルバイト
- 7 学生
- 8 無職（専業主婦・主夫を含む）

問 2 お子様はいらっしゃいますか。いらっしゃる場合、その人数をお教えてください。

【単一回答】

- 1 いる（ 人）
- 2 いない

問 3 国民年金と厚生年金を公的年金といいます。あなたの公的年金の加入や受給の状況についておたずねします。次のうち、あなたが当てはまるものをすべてお答えください。

【複数回答、ただし、1、2 及び 3 の中で 2 つ以上は選べず、また、7 及び 8 は排他】

- 1 国民年金に加入し、国民年金保険料を支払っているか、その免除または猶予を受けている（第 1 号被保険者）
- 2 厚生年金に加入し、給与から厚生年金保険料を支払っている（第 2 号被保険者）
- 3 厚生年金に加入する配偶者の被扶養者である（第 3 号被保険者）
- 4 老齢年金を受給している
- 5 障害年金を受給している
- 6 遺族年金を受給している
- 7 これまで公的年金には加入したことはない
- 8 自分が上記のどれに該当するのかわからない

問 4 企業によっては、従業員のために企業年金を実施するところがあります。また、個人で任意で加入できるものとして、個人型確定拠出年金（iDeCo（イデコ））や国民年金基金があります。次のうち、あなたがあてはまるものをすべてお答えください。

【複数回答、ただし、5、6及び7の中で2つ以上は選べず、また8及び9は排他】

- 1 確定拠出型（あなたが運用の指図をするタイプ）の企業年金に加入している
- 2 それ以外の企業年金（確定給付企業年金、厚生年金基金など）に加入している
- 3 個人型確定拠出年金（iDeCo）に加入している
- 4 国民年金基金に加入している
- 5 上記1～4のどれかから受給している
- 6 上記1～4のどれかに加入したことがあるが、受給したことはない
- 7 上記1～4のどれかから受給したことがあるが、今は受給していない
- 8 上記1～4のどれにも加入したことはない
- 9 自分が上記1～4のどれかに加入したかどうか分からない

問 5 あなたの昨年の年収（税込）はおおよそいくらでしたか。

【単一回答】

- 1 無収入
- 2 有収入だが200万円未満
- 3 200万円以上～400万円未満
- 4 400万円以上～600万円未満
- 5 600万円以上～800万円未満
- 6 800万円以上～1,000万円未満
- 7 1,000万円以上～1,500万円未満
- 8 1,500万円以上

問 6 あなたの保有する金融資産（現金、預貯金、株式、債券、投資信託など）の額は全部でおおよそどれくらいですか。不動産は除いてお答えください。

【単一回答】

- 1 50万円未満
- 2 50万円以上～100万円未満
- 3 100万円以上～200万円未満
- 4 200万円以上～500万円未満
- 5 500万円以上～1,000万円未満
- 6 1,000万円以上～2,000万円未満
- 7 2,000万円以上～5,000万円未満
- 8 5,000万円以上～1億円未満
- 9 1億円以上

問 7 あなたは、これまで次のような投資をした経験がありますか。あてはまるものをすべて選んでください。

【複数回答、ただし、8は排他】

- 1 個別の企業の株式
- 2 株式に投資する投資信託（株式投資信託またはETF）
- 3 個別の企業の社債
- 4 国債又は地方債（個人向けを含みます）
- 5 国債、地方債または社債に投資する投資信託（公社債投資信託）
- 6 外貨建ての債券またはこれらに投資する投資信託
- 7 株式と債券の両方に投資する投資信託
- 8 上記のどれも経験がない

問 8-1【問 7 で 1～7 のいずれかを選んだ回答者に】 あなたは、前問で経験があると回答された投資をどのように行っていますか。最もあてはまるものをお答えください。複数の投資を選ばれた方は、最も残高の大きいものについてお答えください。

【単一回答】

- 1 自分で計画して行っている
- 2 自分でタイミングを見計らって行っている
- 3 自分が思いついたときに行っている
- 4 金融機関などの勧めや助言に基づいて行っている
- 5 普段は行っていないが、金融機関などで勧められて行ったことがある
- 6 勤め先の企業で確定拠出年金（DC）に加入し、投資を行っている
- 7 相続や譲渡によって得たものを保有し続けている
- 8 従業員持ち株会やストックオプションを通じて勤め先の株式を保有している
- 9 その他（ ）

問 8-2【問 7 で 8 を選んだ回答者に】 あなたは前問で、株式・債券・投資信託への投資の経験がないと回答されましたが、その理由についてあてはまるものをすべて選んでください。また、そのうち最もあてはまるものを 1 つ選んでください。

【複数回答及び単一回答】

	あてはまるもの（いくつでも）	最も当てはまるもの（1つ）
(1) 投資には関心がないから	1	1
(2) 今まで投資をするきっかけがなかったから	2	2
(3) 投資をするにしてもまだ先だと思っから	3	3
(4) 投資にはリスクがあり、損がこわいから	4	4
(5) 仕組みが複雑そうでよくわからないから	5	5
(6) きちんと換金できるかわからないから	6	6
(7) ギャンブルに似てイメージがよくないから	7	7
(8) 証券会社などにだまされそうな気がするから	8	8
(9) 他に好ましい投資先があるから	9	9
(10) 投資する資金がないから	10	10
(11) その他（ ）	11	11

問 9 これから 5 年程度先のあなたの暮らし向きについて、どのような見通しを持っていますか。次のうち最も近いものを 1 つ選んでください。

【単一回答】

- 1 今よりずっと豊かになれるだろう
- 2 今より少しは豊かになれるだろう
- 3 今の暮らし向きと変わらないだろう
- 4 今より少し厳しくなるだろう
- 5 今よりずっと厳しくなるだろう
- 6 これからのことは特に考えていない

問 10 日本政府は 2050 年までに大気中への二酸化炭素の排出を実質ゼロにすること、また、2030 年には排出量を 2013 年比で 46%削減することを目標としています。あなたは、この目標やそれに向けた取り組みをどのように思いますか。

【単一回答】

- 1 とてもよい
- 2 まあよい
- 3 あまりよくない
- 4 まったくよくない
- 5 その他 ()
- 6 わからない

問 11 いくつかの企業の製品（性能はほぼ同じ）の中から購入を検討する場面を想像してください。その中に次のような企業がある場合、あなたはその情報を製品選択の際にどの程度考慮すると思いますか。

【項目ごとに単一回答】

	かなり高くてもその企業の製品を選ぶ	かなりでなく、少し高いただけならその企業の製品を選ぶ	値段が変わらなければその企業の製品を選ぶ	この情報は製品選択では考慮しない
(1) 大気中への二酸化炭素の排出を極力抑制するよう努力をしている企業	1	2	3	4
(2) 省エネやリサイクルを重視するなど、環境に及ぼす影響が少ない製品を提供している企業	1	2	3	4
(3) 残業を極力減らし、育児休業を取りやすくするなど女性も働きやすい職場環境を整える努力をしている企業	1	2	3	4
(4) 自社だけでなく取引先（海外の取引先を含みます）で、児童労働など人権を無視した劣悪な労働条件が持ち込まれないよう努力している企業	1	2	3	4
(5) 地球環境問題への対応、労働条件の改善、人材戦略、経営の目的などについて分かりやすく公表している企業	1	2	3	4
(6) 社外取締役を重視する企業	1	2	3	4

問 12 もし、あなたに十分なお金があるとすると、次のような企業の株式や社債を買いたいと思いますか。

【項目ごとに単一回答】

	ぜひ買いたい	買うことを検討したい	買うかどうかかわからないが考えてみたい	この情報があるからといって株式や社債の購入を考えるとはない
(1) 大気中への二酸化炭素の排出を極力抑制するよう努力をしている企業	1	2	3	4
(2) 省エネやリサイクルを重視するなど、環境に及ぼす影響が少ない製品を提供している企業	1	2	3	4
(3) 残業を極力減らし、育児休業を取りやすくするなど女性も働きやすい職場環境を整える努力をしている企業	1	2	3	4
(4) 自社だけでなく取引先（海外の取引先を含みます）で、児童労働など人権を無視した劣悪な労働条件が持ち込まれないよう努力している企業	1	2	3	4
(5) 地球環境問題への対応、労働条件の改善、人材戦略、経営の目的などについて分かりやすく公表している企業	1	2	3	4
(6) 社外取締役を重視する企業	1	2	3	4

問 13 もし、あなたかあなたの親族もしくはあなたの親しい友人が、次のような企業の株式か社債を持っているとすると、どのように感じると思いますか。

【項目ごとに単一回答】

	損益にかかわらず、すぐ手放すべきだ	損益にもよるが、なるべく手放すべきだ	手放すことを検討する方がよい	この情報があるからといって株式や社債に関して特に感じることはない
(1) 大気中への二酸化炭素の排出を抑制する努力をまったくしない企業	1	2	3	4
(2) 製品の製造や製品自体がエネルギー多消費や使い捨てであるなど、環境への配慮が後回しになっている企業	1	2	3	4
(3) サービス残業が日常化し労働災害も時々生じているブラック企業	1	2	3	4
(4) 取引先（海外の取引先を含みます）で、児童労働など人権を無視した劣悪な労働条件があっても、自社とは関係がないとして平然としている企業	1	2	3	4
(5) 地球環境問題への対応、労働条件の改善、人材戦略、経営の目的などの公表に後ろ向きの企業	1	2	3	4
(6) 社外取締役は置かないか、置いても形だけの企業	1	2	3	4

問 14 これまでお答えいただいたような、様々な環境(Environment)や社会(Social)に関わる問題、企業の統治(Governance)を考慮して投資を行うことを、それぞれの英語の頭文字をとって、ESG投資と呼びます。また、これら ESG の事項などに取り組む企業の責任を、企業の社会的責任(英語の頭文字をとって「CSR」)と呼びます。企業の統治はコーポレート・ガバナンスともいいます。あなたは、これらの言葉の意味を、どの程度知っていましたか。

【項目ごとに単一回答】

	よく知っていた	まあ知っていた	言葉だけは聞いたことがある	まったく知らなかった
(1) ESG 投資	1	2	3	4
(2) CSR (企業の社会的責任)	1	2	3	4
(3) コーポレート・ガバナンス	1	2	3	4

問 15 環境や社会に関わる問題などに取り組む企業の社会的責任(CSR)についておたずねします。次のうち、あなたのお考えに沿うものをすべて選んでください。

【複数回答、ただし 8 は排他】

- 1 CSR は企業経営が適切に行われるための基本であり、企業は率先して取り組むべきだ。
- 2 CSR に積極的に取り組んでいる企業には好感が持てる。
- 3 多くの企業が CSR に取り組めば、経済全体の発展や成長にもつながる。
- 4 企業は利益を追求することが目的なので、CSR は法令や規制の範囲でやればよい。
- 5 CSR は企業のイメージアップ活動に過ぎないので、特に評価する必要はない。
- 6 CSR に取り組む余裕があるなら、製品やサービスの価格を下げたい。
- 7 その他 ()
- 8 CSR についてはよくわからない。

問 16 あなたは、あなたや家族が払った公的年金の保険料の一部が積み立てられ、株式や債券などに投資されて運用されることを、どの程度知っていましたか。

【単一回答】

- 1 よく知っていた
- 2 まあ知っていた
- 3 聞いたことはある
- 4 知らなかった

問 17 現在では、あなたや家族が払った公的年金の保険料を含む積立金の約半分が国内や外国の株式に投資されています。株式投資に関する次のような考え方について、あなたはどのように思いますか。

【項目ごとに単一回答】

	その通り だと思う	どちらか とといえば そう思う	どちらか とといえば そう思わ ない	まったく そう思わ ない	わからな い
(1) 短期的にはともかく長期的には、経済の成長・発展に伴って投資収益の獲得を期待できる	1	2	3	4	5
(2) 個別の企業では倒産の可能性などを含めリスクは大きいですが、多くの銘柄に分散投資することでかなりの程度リスクを抑制できる	1	2	3	4	5
(3) 株主が投資先企業と建設的な対話をするすることで、企業価値の向上に寄与できる	1	2	3	4	5

問 18 あなたや家族が払った公的年金の保険料を含む積立金の一部を株式に投資することについて、どのように思いますか。あなたの考えに沿うものを1つ選んでください。

【単一回答】

- 1 公的年金の積立金は株式に重点的に投資すべきだ
- 2 債券などの他の種類の資産と組み合わせた分散投資の一環なら、株式に投資してもかまわない
- 3 株式には投資しない方がよいと思うが、今日のような低金利下ではやむを得ない
- 4 公的年金の積立金は株式に投資するべきではない
- 5 その他 ()
- 6 わからない

問 19 国連事務総長の呼びかけにより 2006 年に取りまとめられた責任投資原則 (PRI) では、投資のプロセスに環境や社会、企業の統治といった ESG の課題を組み込むこと、活動的な株式所有者となって所有方針等に ESG 問題を組み入れることなどを宣言しています。世界の多くの機関投資家が署名しており、日本の公的年金積立金の運用を行う GPIF (※) も 2015 年 9 月にこれに署名しました。

※ 「GPIF」は、「年金積立金管理運用独立行政法人」の略称です。

(1) あなたは、「責任投資原則(PRI)」を知っていましたか。

【単一回答】

- 1 よく知っていた
- 2 まあ知っていた
- 3 聞いたことはある
- 4 知らなかった

(2) あなたは、この考えや取り組みをどのように思いますか。

【単一回答】

- 1 とてもよい
- 2 まあよい
- 3 あまりよくない
- 4 まったくよくない
- 5 その他 ()
- 6 わからない

問 20 あなたや家族が払った保険料の一部も含まれる公的年金の積立金で、環境や社会、企業の統治（コーポレート・ガバナンス）を考慮した投資(ESG 投資)をすることについて、おうかがいします。あなたは、次のような意見や考えをどう思いますか。

【項目ごとに単一回答】

	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	わからな い
(1) 自分や家族の払った保険料は、環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどの取組みを支援するよう投資してほしい	1	2	3	4	5
(2) 自分や家族の払った保険料は、環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどに後ろ向きの企業には投資しないようにしてほしい	1	2	3	4	5
(3) 年金のような長期資金では、投資において環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどを考慮することは合理的だ	1	2	3	4	5
(4) 年金の積立金は将来の年金の支払いだけを考えて運用すべきであり、環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどを考えることは、これに関係がないので、慎重であるべきだ	1	2	3	4	5
(5) 環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどを考慮して投資先を選定しても、運用成績には結びつかない	1	2	3	4	5
(6) 公的な資金は企業経営に影響を与えるべきではない	1	2	3	4	5

問 21 前問を踏まえ、あなたは、あなたや家族が払った保険料の一部が含まれ、将来受け取る年金の財源になる公的年金の積立金で、環境や社会、企業の統治（コーポレート・ガバナンス）を考慮した投資(ESG 投資)をすることについて、どのように希望しますか。

【単一回答】

- 1 してほしい
- 2 どちらかといえばしてほしい
- 3 どちらかといえばしてほしくない
- 4 してほしくない
- 5 わからない

問 22 企業の中には独自で企業年金を実施するところがあります。企業年金の一つである確定給付企業年金(DB)では、基本的に企業ごとに積立金の運用を行っています。このような企業年金で、環境や社会、企業の統治（コーポレート・ガバナンス）を考慮した投資(ESG 投資)をすることについて、次のような意見や考えをどう思いますか。企業年金へのご加入の有無にかかわらず、一般的なお考えとしてお答えください。

【項目ごとに単一回答】

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない
(1) 企業年金の積立金運用では、環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどの取組みを支援すべきだ	1	2	3	4	5
(2) 企業年金の積立金は、環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどに後ろ向きの企業に投資されないようにすべきだ。	1	2	3	4	5
(3) 企業年金の積立金は、主に企業が拠出したものなので、その企業の社会的責任（CSR）に関する方針に沿った運用をすべきだ	1	2	3	4	5
(4) 企業年金の積立金は、将来の年金の支払いだけを考えて運用すべきであり、環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどを考えることは、労使から明確な意思表示がない限り、慎重であるべきだ	1	2	3	4	5
(5) 企業年金の積立金は、企業の労働者の老後の生活に充てられる資金なので、運用のし方も労働者の意見をよく聞いて決めるべきだ	1	2	3	4	5
(6) 企業年金の積立金は、民間の資金なので、政府が運用に口出しすべきではない	1	2	3	4	5

問 23 前問を踏まえ、あなたは、企業が実施する企業年金で、環境や社会、企業の統治（コーポレート・ガバナンス）を考慮した投資(ESG 投資)をすることについて、どのように思いますか。企業年金に加入されていない方も、企業年金への希望としてお答えください。

【単一回答】

- 1 してほしい
- 2 どちらかといえばしてほしい
- 3 どちらかといえばしてほしくない
- 4 してほしくない
- 5 わからない

問 24 企業年金の中には、加入者が運用の指図をするタイプの年金（企業型確定拠出年金といいますが）があります。また、個人で任意で加入できる個人型確定拠出年金（iDeCo（イデコ））もあります。あなたは、確定拠出年金を通じて、環境や社会、企業の統治（コーポレート・ガバナンス）を考慮した投資(ESG 投資)をすることについて、どのように思いますか。現在、確定拠出年金に加入していない方も、仮にご自分がご自身の積立金の運用を指図する立場になった場合を想像してお答えください。

【単一回答】

- 1 積極的にしたい
- 2 少しはしたい
- 3 あまりしたくない
- 4 したくない
- 5 わからない

問 25 あなたは、公的年金、企業年金をあわせた日本の年金資金による ESG 投資（環境や社会、コーポレート・ガバナンスを考慮した投資）について、これからどのようにしていくべきだと思いますか。

【単一回答】

- 1 積極的に取り組むべきだ
- 2 徐々に取り組んでいくべきだ
- 3 否定はしないが、控えめでよい
- 4 必要ない
- 5 その他 ()
- 6 わからない

問 26 グローバル化が進む現代社会では、国境を越えて影響をもたらす国際的課題について、より一層国際社会が団結して取り組む必要があり、2015年に国連は持続可能な開発目標（SDGs）を定め、2030年までの目標達成を目指し、貧困や不平等、暴力等の社会問題、気候変動等の環境問題に政府、企業、市民団体、個人等がそれぞれ取り組みを行うよう求めています。あなたは、SDGsについてどの程度関心を持っていますか。

【単一回答】

- 1 大いに関心がある
- 2 まあ関心がある
- 3 あまり関心はない
- 4 まったく関心がない

問 27 投資は、経済的な利益を得るために行いますが、近年、社会的な利益も重視すべきとの考え方から「インパクト投資」が提唱されています。「インパクト投資」とは、収益を確保しつつ、環境問題や社会問題の解決も追求するという考え方の投資です。インパクト投資は、国連で持続可能な開発目標（SDGs）が採択されたことを機に、注目度が高まっています。

(1) あなたは、「インパクト投資」を知っていましたか。

【単一回答】

- 1 よく知っていた
- 2 まあ知っていた
- 3 聞いたことはある
- 4 知らなかった

(2) あなたは、「インパクト投資」についてどのように思いますか。

【単一回答】

- 1 とてもよい
- 2 まあよい
- 3 あまりよくない
- 4 まったくよくない
- 5 その他（ ）
- 6 わからない

(3) 年金の積立金の運用では、長期的な投資収益の確保を最優先にしていますが、あなたは、年金の積立金で、環境問題や社会問題の解決を考慮することについてどのように思いますか。

公的年金、企業年金（企業ごとに積立金の運用を行う確定給付企業年金など）、確定拠出年金（加入者が自身の積立金の運用の指図をする）のそれぞれについてお答えください。これらの年金に加入されていない方も一般的な希望としてお考えください。

公的年金

【単一回答】

- 1 積極的にしてほしい
- 2 どちらかというとしてほしい
- 3 投資収益が確保できるのなら、してほしい
- 4 どちらかというとしてほしくない
- 5 全くしてほしくない
- 6 その他（ ）
- 7 わからない

企業年金（企業ごとに積立金の運用を行う確定給付企業年金など）

【単一回答】

- 1 積極的にしてほしい
- 2 どちらかというとしてほしい
- 3 投資収益が確保できるのなら、してほしい
- 4 どちらかというとしてほしくない
- 5 全くしてほしくない
- 6 その他（ ）
- 7 わからない

確定拠出年金（加入者が自身の積立金の運用の指図をする）

【単一回答】

- 1 積極的にしてほしい（したい）
- 2 どちらかというとしてほしい（したい）
- 3 投資収益が確保できるのなら、してほしい（したい）
- 4 どちらかというとしてほしくない（したくない）
- 5 全くしてほしくない（したくない）
- 6 その他（ ）
- 7 わからない

3 今回調査の集計結果

以下では、実際の質問項目ごとに、全体・性別及び年齢階層別の集計結果を示す。ただし、60～69歳及び70歳以上のサンプルについては、抽出率が59歳以下のそれぞれ2分の1、3分の1となるように回収サンプル数を定めることとし、集計時に回答者数を2倍ないし3倍にする。

インターネット調査では高学歴バイアスが生じ得るため、今回は学歴の区分について、サンプルの段階で区分することにした。それ以外の性別、年齢層別、居住地域別の区分については前回調査と同じ扱いである。

問1 あなたのご職業をおたずねします。次の中から最も当てはまるものを1つ選んでください。

【単一回答】

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	自営業・自由業・家族従業員	6.4	9.6	3.4
2	会社・団体の経営者または役員	1.4	2.4	0.5
3	会社・団体の正規職員	25.7	36.6	15.6
4	公務員	2.8	3.8	1.8
5	契約社員・派遣社員・嘱託	5.9	7.1	4.7
6	パート・アルバイト	14.8	7.6	21.6
7	学生	1.3	1.6	0.9
8	無職（専業主婦・主夫を含む）	41.7	31.4	51.4
合計		100.00	100.00	100.00

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	3.8	6.3	7.2	8.4	7.7	5.0
2	1.0	1.7	2.2	1.9	2.0	0.2
3	38.8	44.2	39.8	36.2	11.1	2.5
4	5.0	4.1	4.5	4.1	1.3	0.0
5	5.3	6.2	6.3	6.6	11.5	2.1
6	16.2	17.1	17.9	17.4	15.3	9.1
7	10.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
8	19.3	20.4	22.2	25.5	51.1	81.0
合	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

問2 お子様はいらっしゃいますか。いらっしゃる場合、その人数をお教えてください。

【単一回答】

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	いる	55.8	51.3	60.0
2	いない	44.2	48.7	40.0
合計		100.00	100.00	100.00

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	15.2	31.3	46.0	54.3	74.1	84.1
2	84.8	68.7	54.0	45.7	25.9	15.9
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

子どもの人数

		全体	男性	女性
		%	%	%
	0人	44.2	48.7	40.0
	1人	15.2	12.8	17.4
	2人	30.6	29.7	31.4
	3人	9.0	7.7	10.2
	4人	0.9	0.9	0.9
	5人	0.1	0.1	0.1
	6人	0.0	0.0	0.0
	7人	0.0	0.0	0.0
	20人	0.0	0.0	0.0
合計		100.00	100.00	100.00

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
0	84.8	68.7	54.0	45.7	25.9	15.9
1	10.8	12.6	18.0	17.2	17.7	14.0
2	3.4	14.0	21.7	28.7	40.7	52.9
3	0.9	4.3	5.6	7.5	13.5	15.7
4	0.1	0.2	0.6	0.8	2.2	1.2
5	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.4
6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
7	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0
20	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

問 3 国民年金と厚生年金を公的年金といいます。あなたの公的年金の加入や受給の状況についておたずねします。次のうち、あなたがあてはまるものをすべてお答えください。
【複数回答、ただし、1、2及び3の中で2つ以上は選べず、また、7及び8は排他】

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	国民年金に加入し、国民年金保険料を支払っているか、その免除または猶予を受けている (第1号被保険者)	20.5	20.7	20.3
2	厚生年金に加入し、給与から厚生年金保険料を支払っている(第2号被保険者)	30.9	40.2	22.2
3	厚生年金に加入する配偶者の被扶養者である (第3号被保険者)	10.8	1.1	19.8
4	老齢年金を受給している	23.0	21.6	24.3
5	障害年金を受給している	1.7	2.4	1.1
6	遺族年金を受給している	2.0	0.2	3.6
7	これまで公的年金に加入したことはない	1.3	1.7	0.9
8	自分が上記のどれに該当するのかわからない	13.4	14.6	12.3

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	29.0	24.0	23.8	26.8	18.4	9.9
2	26.8	43.6	49.8	45.0	27.2	6.6
3	5.0	9.6	15.8	16.8	13.1	5.6
4	0.7	0.2	0.2	0.4	33.0	69.0
5	1.8	2.6	1.5	2.6	2.2	0.6
6	0.1	0.1	0.2	0.6	0.9	6.4
7	3.4	1.5	0.9	0.9	0.9	1.0
8	34.7	19.6	8.7	8.7	9.7	8.7

問 4 企業によっては、従業員のために企業年金を実施するところがあります。また、個人で任意で加入できるものとして、個人型確定拠出年金（iDeCo（イデコ））や国民年金基金があります。次のうち、あなたがあてはまるものをすべてお答えください。

【複数回答、ただし、8及び9は排他】

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	確定拠出型（あなたが運用の指図をするタイプ）の企業年金に加入している	8.4	12.1	5.0
2	それ以外の企業年金（確定給付企業年金、厚生年金基金など）に加入している	9.9	12.9	7.1
3	個人型確定拠出年金（iDeCo）に加入している	4.7	6.1	3.4
4	国民年金基金に加入している	7.2	6.9	7.4
5	上記1～4のどれかから受給している	15.5	14.7	16.3
6	上記1～4のどれかに加入したことがあるが、受給したことはない	3.6	3.6	3.7
7	上記1～4のどれかから受給したことがあるが、今は受給していない	1.8	2.2	1.4
8	上記1～4のどれにも加入したことはない	27.2	23.9	30.2
9	自分が上記1～4のどれかに加入したことがあるかどうかわからない	27.7	25.8	29.4

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	11.2	12.8	12.9	12.7	3.8	1.9
2	7.0	8.6	10.5	12.6	13.1	7.9
3	4.3	8.0	9.8	7.3	1.5	0.0
4	9.4	7.3	6.7	7.8	6.4	6.4
5	1.3	1.0	1.4	1.4	23.2	43.6
6	2.0	3.8	5.4	7.0	4.4	0.6
7	0.4	0.1	1.3	1.4	2.9	3.1
8	17.5	25.1	28.2	28.7	33.6	27.3
9	50.7	37.8	30.3	27.4	19.0	15.3

問5 あなたの昨年の年収（税込）はおおよそいくらでしたか。

【単一回答】

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	無収入	15.8	9.5	21.5
2	有収入だが200万円未満	35.2	18.8	50.4
3	200万円以上～400万円未満	26.9	34.1	20.2
4	400万円以上～600万円未満	11.4	18.5	4.8
5	600万円以上～800万円未満	5.6	9.9	1.7
6	800万円以上～1,000万円未満	2.7	5.2	0.4
7	1,000万円以上～1,500万円未満	1.4	2.5	0.4
8	1,500万円以上	1.0	1.5	0.5
合計		100.00	99.99	100.00

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	19.6	16.9	17.8	19.4	17.3	8.9
2	31.0	25.9	26.6	27.0	41.2	49.4
3	32.1	27.8	21.2	19.9	24.6	33.7
4	13.4	19.2	16.4	12.0	7.3	5.0
5	2.1	6.2	10.5	9.6	6.0	1.0
6	0.4	2.0	4.5	7.1	1.3	1.0
7	0.3	0.9	2.0	4.1	1.5	0.2
8	1.1	1.2	0.9	1.1	0.9	0.8
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

問 6 あなたの保有する金融資産（現金、預貯金、株式、債券、投資信託など）の額は全部でおおよそどれくらいですか。不動産は除いてお答えください。

【単一回答】

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	50万円未満	33.9	31.9	35.7
2	50万円以上～100万円未満	8.6	7.9	9.3
3	100万円以上～200万円未満	8.4	8.4	8.4
4	200万円以上～500万円未満	14.2	13.4	15.0
5	500万円以上～1,000万円未満	12.5	11.8	13.1
6	1,000万円以上～2,000万円未満	10.3	11.0	9.5
7	2,000万円以上～5,000万円未満	8.4	10.4	6.6
8	5,000万円以上～1億円未満	2.4	3.1	1.8
9	1億円以上	1.3	2.1	0.5
合計		100.00	100.00	100.00

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	52.6	38.8	38.7	39.9	26.3	20.3
2	12.6	11.0	8.4	9.2	6.4	6.6
3	9.2	12.1	8.6	8.1	6.2	7.4
4	15.6	13.4	14.3	13.4	17.7	12.4
5	5.7	11.8	12.1	10.3	14.2	16.5
6	2.0	7.3	8.2	7.2	10.4	18.8
7	0.3	4.6	7.4	7.7	13.7	12.2
8	0.4	0.2	1.1	3.3	3.8	4.1
9	1.6	0.9	1.0	0.9	1.3	1.7
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

問 7 あなたは、これまで次のような投資をした経験がありますか。あてはまるものをすべて選んでください。

【複数回答、ただし、8は排他】

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	個別の企業の株式	22.9	31.6	14.9
2	株式に投資する投資信託（株式投資信託またはETF）	15.4	19.7	11.4
3	個別の企業の社債	3.0	4.3	1.9
4	国債又は地方債（個人向けを含みます）	6.9	6.6	7.1
5	国債、地方債または社債に投資する投資信託（公社債投資信託）	3.3	4.4	2.3
6	外貨建ての債券またはこれらに投資する投資信託	5.0	5.3	4.7
7	株式と債券の両方に投資する投資信託	6.6	7.9	5.5
8	上記のどれも経験がない	65.3	57.6	72.5

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	8.8	17.9	20.6	21.7	24.1	33.7
2	7.4	14.4	14.0	13.0	15.9	21.5
3	2.0	2.5	2.6	2.2	3.3	4.5
4	2.1	3.0	4.6	5.7	8.8	12.2
5	2.3	2.2	2.6	2.9	3.8	4.8
6	2.0	4.1	4.5	4.9	6.2	6.6
7	3.1	5.0	6.1	5.7	7.5	9.5
8	81.1	71.9	68.8	68.6	62.6	51.9

問 8-1【問 7 で 1～7 のいずれかを選んだ回答者に】 あなたは、前問で経験があると回答された投資をどのように行っていますか。最もあてはまるものをお答えください。複数の投資を選ばれた方は、最も残高の大きいものについてお答えください。

【単一回答】

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	自分で計画して行っている	34.4	40.3	26.0
2	自分でタイミングを見計らって行っている	23.7	25.7	20.9
3	自分が思いついたときに行っている	12.8	12.4	13.4
4	金融機関などの勧めや助言に基づいて行っている	15.1	11.4	20.5
5	普段は行っていないが、金融機関などで勧められて行ったことがある	6.5	3.8	10.2
6	勤め先の企業で確定拠出年金（DC）に加入し、投資を行っている。	1.2	1.6	0.7
7	相続や譲渡によって得たものを保有し続けている	2.2	0.8	4.2
8	従業員持ち株会やストックオプションを通じて勤め先の株式を保有している	2.5	2.9	1.8
9	その他（ ）	1.5	1.0	2.3
合計		100.00	100.00	100.00

	20～29	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69	70歳以上
1	44.4	52.2	43.8	33.1	27.8	26.6
2	20.3	19.7	25.8	22.8	29.0	22.6
3	13.5	10.5	15.8	17.9	13.6	9.7
4	9.0	8.8	4.9	9.6	17.8	23.8
5	6.0	1.8	4.0	6.0	6.5	9.3
6	2.3	2.2	2.7	2.6	0.0	0.0
7	1.5	1.3	0.9	3.0	2.4	2.8
8	3.0	2.2	2.1	3.3	1.2	2.8
9	0.0	1.3	0.0	1.7	1.8	2.4
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

問 8-2【問 7 で 8 を選んだ回答者に】あなたは前問で、株式・債券・投資信託への投資の経験がないと回答されましたが、その理由についてあてはまるものをすべて選んでください。また、そのうち最もあてはまるものを1つ選んでください。

【複数回答及び単一回答】

あてはまるもの (いくつでも)

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	投資には関心がないから	57.8	56.8	58.5
2	今まで投資をするきっかけがなかったから	14.0	14.5	13.7
3	投資をするにしてもまだ先だと思ふから	2.9	3.5	2.5
4	投資にはリスクがあり、損がこわいから	32.1	29.0	34.4
5	仕組みが複雑そうでよくわからないから	18.5	14.7	21.3
6	きちんと換金できるかわからないから	5.7	4.3	6.6
7	ギャンブルに似てイメージがよくないから	11.8	12.1	11.7
8	証券会社などにだまされそうな気がするから	6.1	6.4	5.8
9	他に好ましい投資先があるから	1.9	2.8	1.3
10	投資する資金がないから	31.8	35.3	29.3
11	その他 ()	0.4	0.4	0.4

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	46.9	46.2	47.8	59.8	71.0	72.0
2	15.6	14.2	15.7	14.1	14.5	10.8
3	7.4	3.1	2.8	1.1	1.1	2.6
4	26.3	28.8	33.2	30.3	38.9	34.3
5	20.3	20.4	20.1	17.8	17.7	15.7
6	4.7	4.8	4.1	7.1	6.7	6.3
7	9.1	9.4	12.1	11.1	14.8	13.8
8	4.0	5.1	5.5	7.0	7.8	6.7
9	2.3	1.5	1.1	1.4	1.1	3.7
10	34.0	29.8	32.1	31.6	26.1	35.8
11	0.4	0.5	0.1	0.3	0.0	1.1

最もあてはまるもの（1つ）

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	投資には関心がないから	46.2	46.3	46.1
2	今まで投資をするきっかけがなかったから	4.3	4.2	4.4
3	投資をするにしてもまだ先だと思ふから	0.7	0.8	0.5
4	投資にはリスクがあり、損がこわいから	17.5	14.9	19.5
5	仕組みが複雑そうでよくわからないから	5.2	3.5	6.5
6	きちんと換金できるかわからないから	0.4	0.1	0.6
7	ギャンブルに似てイメージがよくないから	1.8	2.1	1.6
8	証券会社などにだまされそうな気がするから	0.5	0.7	0.4
9	他に好ましい投資先があるから	0.6	1.0	0.3
10	投資する資金がないから	22.4	25.9	19.8
11	その他 ()	0.3	0.4	0.3
合計		100.00	100.00	100.00

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	37.7	38.0	40.2	47.3	54.1	57.1
2	6.1	6.3	6.1	3.8	2.8	1.5
3	2.8	0.5	0.4	0.3	0.4	0.0
4	14.9	16.4	18.9	18.4	20.8	16.0
5	7.9	9.8	5.8	3.9	3.5	1.9
6	0.7	0.7	0.1	0.8	0.4	0.0
7	1.9	2.7	3.3	1.7	1.1	0.4
8	0.2	0.7	0.4	0.6	0.4	0.7
9	1.4	0.9	0.6	0.6	0.4	0.0
10	26.1	23.5	24.1	22.5	16.3	21.6
11	0.4	0.5	0.1	0.2	0.0	0.7
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

問 9 これから 5 年程度先のあなたの暮らし向きについて、どのような見通しを持っていますか。次のうち最も近いものを 1 つ選んでください。

【単一回答】

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	今よりずっと豊かになれるだろう	2.6	3.3	1.9
2	今より少しは豊かになれるだろう	8.3	9.2	7.5
3	今の暮らし向きと変わらないだろう	30.2	26.8	33.3
4	今より少し厳しくなるだろう	24.3	25.0	23.6
5	今よりずっと厳しくなるだろう	17.6	17.1	18.2
6	これからのことは特に考えていない	16.9	18.6	15.4
合計		100.00	100.00	100.00

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	5.3	3.6	4.2	2.6	1.1	0.6
2	17.8	12.9	11.5	7.4	4.9	2.1
3	23.7	29.1	28.8	27.9	28.8	37.0
4	14.9	15.5	19.7	23.2	32.5	32.2
5	9.7	16.6	18.1	21.0	21.0	17.4
6	28.7	22.3	17.7	17.9	11.7	10.7
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

問 10 日本政府は 2050 年までに大気中への二酸化炭素の排出を実質ゼロにすること、また、2030 年には排出量を 2013 年比で 46%削減することを目標としています。あなたは、この目標やそれに向けた取り組みをどのように思いますか。

【単一回答】

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	とてもよい	15.4	13.5	17.1
2	まあよい	38.7	36.3	40.9
3	あまりよくない	12.7	16.2	9.5
4	まったくよくない	5.8	8.5	3.4
5	その他 ()	0.4	0.4	0.4
6	わからない	27.0	25.2	28.7
合計		100.00	100.00	100.00

	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70 歳以上
1	11.4	9.4	13.3	12.7	17.0	22.5
2	35.5	33.0	34.0	38.1	43.6	43.8
3	14.8	15.0	14.1	12.9	11.3	10.3
4	5.1	8.1	7.8	7.2	5.1	3.3
5	0.0	0.1	0.4	0.3	0.2	0.8
6	33.2	34.4	30.4	28.8	22.8	19.4
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

問 11 いくつかの企業の製品（性能はほぼ同じ）の中から購入を検討する場面を想像してください。その中に次のような企業がある場合、あなたはその情報を製品選択の際にどの程度考慮すると思いますか。

【項目ごとに単一回答】

(1) 大気中への二酸化炭素の排出を極力抑制するよう努力をしている企業

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	かなり高くてもその企業の製品を選ぶ	3.4	4.7	2.2
2	かなりでなく、少し高いだけならその企業の製品を選ぶ	20.5	21.3	19.8
3	値段が変わらなければその企業の製品を選ぶ	44.3	39.0	49.2
4	この情報は製品選択では考慮しない	31.8	35.1	28.7
	合計	100.00	100.00	100.00

	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70 歳以
1	6.3	4.2	3.4	2.3	2.2	3.1
2	18.3	16.3	18.1	17.6	19.0	28.1
3	35.8	38.3	41.5	43.9	47.8	51.4
4	39.6	41.3	37.0	36.2	31.0	17.4
合	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

(2) 省エネやリサイクルを重視するなど、環境に及ぼす影響が少ない製品を提供している企業

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	かなり高くてもその企業の製品を選ぶ	2.6	3.5	1.8
2	かなりでなく、少し高いだけならその企業の製品を選ぶ	21.1	22.3	20.0
3	値段が変わらなければその企業の製品を選ぶ	46.4	40.7	51.8
4	この情報は製品選択では考慮しない	29.9	33.6	26.4
合計		100.00	100.00	100.00

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	4.4	2.7	2.9	2.3	2.4	1.9
2	17.9	17.9	18.8	17.9	19.5	28.7
3	40.5	39.7	42.5	45.9	49.8	53.7
4	37.2	39.8	35.8	33.9	28.3	15.7
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

(3) 残業を極力減らし、育児休業を取りやすくするなど女性も働きやすい職場環境を整える努力をしている企業

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	かなり高くてもその企業の製品を選ぶ	3.3	3.9	2.7
2	かなりでなく、少し高いだけならその企業の製品を選ぶ	17.4	18.2	16.6
3	値段が変わらなければその企業の製品を選ぶ	43.3	39.7	46.6
4	この情報は製品選択では考慮しない	36.0	38.2	34.1
合計		100.00	100.00	100.00

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	6.7	4.7	3.2	2.2	2.9	1.9
2	18.3	14.7	15.8	15.3	15.7	21.7
3	34.9	39.8	38.7	41.5	46.5	51.4
4	40.1	40.9	42.3	41.0	35.0	25.0
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

(4) 自社だけでなく取引先（海外の取引先を含みます）で、児童労働など人権を無視した劣悪な労働条件が持ち込まれないよう努力している企業

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	かなり高くてもその企業の製品を選ぶ	3.2	3.6	2.9
2	かなりでなく、少し高いだけならその企業の製品を選ぶ	19.8	21.7	18.1
3	値段が変わらなければその企業の製品を選ぶ	42.8	38.1	47.1
4	この情報は製品選択では考慮しない	34.2	36.7	31.9
合計		100.00	100.00	100.00

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	4.7	3.4	3.4	2.8	3.5	2.3
2	19.5	16.7	17.9	17.7	17.3	25.8
3	35.7	38.3	39.8	41.9	45.6	49.2
4	40.2	41.5	38.9	37.6	33.6	22.7
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

(5) 地球環境問題への対応、労働条件の改善、人材戦略、経営の目的などについて分かりやすく公表している企業

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	かなり高くてもその企業の製品を選ぶ	3.6	4.4	2.9
2	かなりでなく、少し高いだけならその企業の製品を選ぶ	20.1	20.9	19.4
3	値段が変わらなければその企業の製品を選ぶ	43.6	39.1	47.8
4	この情報は製品選択では考慮しない	32.6	35.6	29.9
合計		100.00	100.00	100.00

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	4.7	3.7	3.4	3.3	2.9	3.9
2	18.5	16.5	17.3	17.0	18.8	27.5
3	37.1	37.9	41.6	43.4	46.9	49.2
4	39.8	41.9	37.7	36.3	31.4	19.4
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

(6) 社外取締役を重視する企業

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	かなり高くてもその企業の製品を選ぶ	2.2	3.2	1.3
2	かなりでなく、少し高いだけならその企業の製品を選ぶ	11.8	13.6	10.0
3	値段が変わらなければその企業の製品を選ぶ	34.5	31.4	37.4
4	この情報は製品選択では考慮しない	51.5	51.8	51.3
合計		100.00	100.00	100.00

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	3.6	2.3	2.3	1.8	2.2	1.7
2	16.6	11.7	11.7	11.7	8.8	11.4
3	31.0	31.9	33.3	33.2	34.1	39.3
4	48.9	54.1	52.8	53.4	54.9	47.5
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

問12 もし、あなたに十分なお金があるとすると、次のような企業の株式や社債を買いたいと思いますか。

【項目ごとに単一回答】

(1) 大気中への二酸化炭素の排出を極力抑制するよう努力をしている企業

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	ぜひ買いたい	6.6	7.2	6.0
2	買うことを検討したい	22.4	22.7	22.1
3	買うかどうか分からないが考えてみたい	30.5	29.3	31.6
4	この情報があるからといって株式や社債の購入を考えると はない	40.5	40.8	40.3
合計		100.00	100.00	100.00

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	7.8	4.9	6.4	6.7	2.9	9.1
2	21.6	19.3	23.2	22.0	21.7	24.4
3	27.6	28.8	29.3	30.5	34.7	31.2
4	43.0	46.9	41.1	40.9	40.7	35.3
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

(2) 省エネやリサイクルを重視するなど、環境に及ぼす影響が少ない製品を提供している企業

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	ぜひ買いたい	6.8	7.4	6.2
2	買うことを検討したい	22.8	22.6	22.9
3	買うかどうか分からないが考えてみたい	30.5	29.9	31.1
4	この情報があるからといって株式や社債の購入を考えると はない	40.0	40.2	39.8
合計		100.00	100.00	100.00

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	8.2	4.8	6.6	7.4	4.0	8.5
2	21.2	18.6	23.1	20.9	22.8	26.6
3	28.4	29.9	27.8	32.0	33.6	30.8
4	42.2	46.7	42.5	39.6	39.6	34.1
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

(3) 残業を極力減らし、育児休業を取りやすくするなど女性も働きやすい職場環境を整える努力をしている企業

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	ぜひ買いたい	5.6	5.9	5.4
2	買うことを検討したい	19.7	19.2	20.3
3	買うかどうか分からないが考えてみたい	31.8	31.9	31.6
4	この情報があるからといって株式や社債の購入を考えると はない	42.9	43.0	42.8
合計		100.00	100.00	100.00

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	8.8	5.4	5.7	5.2	2.7	6.2
2	18.5	15.8	19.9	19.7	18.8	22.9
3	29.8	30.0	29.8	31.4	35.6	32.9
4	42.9	48.8	44.6	43.7	42.9	38.0
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

(4) 自社だけでなく取引先（海外の取引先を含みます）で、児童労働など人権を無視した劣悪な労働条件が持ち込まれないよう努力している企業

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	ぜひ買いたい	5.9	6.5	5.3
2	買うことを検討したい	21.2	20.7	21.7
3	買うかどうか分からないが考えてみたい	30.1	30.0	30.2
4	この情報があるからといって株式や社債の購入を考えると はない	42.8	42.9	42.7
合計		100.00	100.00	100.00

	20～29歳	30～39	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	8.0	4.7	5.5	6.3	2.0	7.8
2	20.6	18.0	21.1	19.7	19.2	25.4
3	28.0	29.8	29.6	31.2	34.7	28.3
4	43.5	47.5	43.8	42.8	44.0	38.6
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

(5) 地球環境問題への対応、労働条件の改善、人材戦略、経営の目的などについて分かりやすく公表している企業

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	ぜひ買いたい	6.3	6.3	6.2
2	買うことを検討したい	22.0	21.6	22.3
3	買うかどうか分からないが考えてみたい	30.8	30.4	31.2
4	この情報があるからといって株式や社債の購入を考えると はない	41.0	41.7	40.4
合計		100.00	100.00	100.00

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	7.8	5.8	5.5	6.8	3.5	7.6
2	18.9	15.9	22.9	19.9	23.0	26.6
3	30.4	30.0	29.3	32.4	32.3	30.4
4	42.9	48.3	42.3	41.0	41.2	35.5
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

(6) 社外取締役を重視する企業

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	ぜひ買いたい	3.1	3.7	2.6
2	買うことを検討したい	13.4	14.4	12.5
3	買うかどうかわからないが考えてみたい	28.6	27.1	30.0
4	この情報があるからといって株式や社債の購入を考えると はない	54.9	54.8	54.9
合計		100.00	100.00	100.00

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	5.8	2.5	3.2	3.5	1.1	3.1
2	15.8	11.8	14.5	13.5	10.0	14.3
3	29.0	27.1	27.7	29.3	30.1	28.5
4	49.4	58.6	54.6	53.6	58.8	54.1
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

問13 もし、あなたかあなたの親族もしくはあなたの親しい友人が、次のような企業の株式か社債を持っているとすると、どのように感じると思いますか。

【項目ごとに単一回答】

(1) 大気中への二酸化炭素の排出を抑制する努力をまったくしない企業

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	損益にかかわらず、すぐ手放すべきだ	7.1	8.3	6.1
2	損益にもよるが、なるべく手放すべきだ	17.7	18.0	17.4
3	手放すことを検討する方がよい	22.5	20.9	23.9
4	この情報があるからといって株式や社債に関して特に感じるこ とはない	52.7	52.8	52.6
合計		100.00	100.00	100.00

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以
1	6.3	5.3	6.2	6.5	5.3	10.7
2	21.7	17.6	16.9	16.2	16.2	18.2
3	19.2	19.0	23.4	20.9	25.0	24.6
4	52.8	58.1	53.6	56.4	53.5	46.5
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

(2) 製品の製造や製品自体がエネルギー多消費や使い捨てであるなど、環境への配慮が後回しになっている企業

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	損益にかかわらず、すぐ手放すべきだ	7.1	7.5	6.6
2	損益にもよるが、なるべく手放すべきだ	17.6	18.8	16.5
3	手放すことを検討する方がよい	23.5	21.5	25.3
4	この情報があるからといって株式や社債に関して特に感じることはない	51.8	52.2	51.5
合計		100.00	100.00	100.00

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	6.7	4.9	5.7	6.0	5.1	11.0
2	20.2	15.8	16.9	16.8	17.7	18.4
3	21.6	20.6	24.2	22.0	24.6	25.8
4	51.6	58.7	53.3	55.3	52.7	44.8
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

(3) サービス残業が日常化し労働災害も時々生じているブラック企業

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	損益にかかわらず、すぐ手放すべきだ	14.6	14.2	15.0
2	損益にもよるが、なるべく手放すべきだ	16.5	17.6	15.4
3	手放すことを検討する方がよい	20.6	19.4	21.6
4	この情報があるからといって株式や社債に関して特に感じることはない	48.3	48.8	47.9
合計		100.00	100.00	100.00

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	12.1	11.6	13.5	14.5	11.5	20.2
2	19.9	16.4	17.6	15.5	15.3	15.5
3	21.3	19.8	20.5	17.6	23.9	20.5
4	46.7	52.2	48.4	52.4	49.3	43.8
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

(4) 取引先（海外の取引先を含みます）で、児童労働など人権を無視した劣悪な労働条件があっても、自社とは関係がないとして平然としている企業

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	損益にかかわらず、すぐ手放すべきだ	13.9	13.7	14.1
2	損益にもよるが、なるべく手放すべきだ	16.5	17.0	16.2
3	手放すことを検討する方がよい	20.7	20.0	21.3
4	この情報があるからといって株式や社債に関して特に感じることはない	48.8	49.3	48.4
合計		100.00	100.00	100.00

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	11.4	11.0	12.9	13.5	10.4	19.6
2	20.7	15.1	17.7	14.2	16.8	15.9
3	19.6	21.1	20.1	19.6	22.6	21.1
4	48.3	52.8	49.3	52.8	50.2	43.4
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

(5) 地球環境問題への対応、労働条件の改善、人材戦略、経営の目的などの公表に後ろ向きの企業

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	損益にかかわらず、すぐ手放すべきだ	9.6	9.7	9.5
2	損益にもよるが、なるべく手放すべきだ	18.3	19.2	17.5
3	手放すことを検討する方がよい	21.8	20.5	23.0
4	この情報があるからといって株式や社債に関して特に感じることはない	50.3	50.5	50.0
合計		100.00	100.00	100.00

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	8.5	7.6	7.8	7.2	8.8	14.3
2	20.5	17.5	18.4	17.0	15.9	20.0
3	20.9	19.6	23.7	21.9	22.6	21.7
4	50.1	55.3	50.1	54.0	52.7	44.0
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

(6) 社外取締役は置かないか、置いても形だけの企業

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	損益にかかわらず、すぐ手放すべきだ	7.2	7.1	7.2
2	損益にもよるが、なるべく手放すべきだ	16.0	17.3	14.8
3	手放すことを検討する方がよい	19.9	18.3	21.4
4	この情報があるからといって株式や社債に関して特に感じることはない	56.9	57.3	56.6
合計		100.00	100.00	100.00

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	8.4	5.7	6.5	6.6	5.3	9.3
2	17.8	14.4	15.3	14.4	15.7	17.6
3	18.9	18.5	21.1	18.8	21.0	20.3
4	55.0	61.5	57.1	60.2	58.0	52.7
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

問 14 これまでお答えいただいたような、様々な環境(Environment)や社会(Social)に関わる問題、企業の統治(Governance)を考慮して投資を行うことを、それぞれの英語の頭文字をとって、ESG 投資と呼びます。また、これら ESG の事項などに取り組む企業の責任を、企業の社会的責任(英語の頭文字をとって「CSR」)と呼びます。企業の統治はコーポレート・ガバナンスともいいます。あなたは、これらの意味を、どの程度知っていましたか。

【項目ごとに単一回答】

(1) ESG 投資

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	よく知っていた	2.5	4.1	1.0
2	まあ知っていた	8.0	11.6	4.6
3	言葉だけは聞いたことがある	20.2	24.8	15.8
4	まったく知らなかった	69.4	59.5	78.5
合計		100.00	100.00	100.00

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	4.1	3.8	2.8	2.3	1.5	1.6
2	11.4	11.2	8.1	7.7	5.3	6.4
3	15.9	16.4	20.1	18.4	21.9	24.2
4	68.6	68.6	69.0	71.6	71.2	67.8
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

(2) CSR (企業の社会的責任)

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	よく知っていた	4.2	6.7	1.8
2	まあ知っていた	12.5	18.1	7.2
3	言葉だけは聞いたことがある	20.7	24.6	17.1
4	まったく知らなかった	62.6	50.5	73.9
合計		100.00	100.00	100.00

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	4.4	5.0	5.7	4.7	4.0	2.3
2	14.9	12.9	12.3	12.4	11.3	12.0
3	18.0	19.0	21.4	20.3	19.0	23.6
4	62.6	63.1	60.6	62.6	65.7	62.0
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

(3) コーポレート・ガバナンス

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	よく知っていた	5.4	8.9	2.2
2	まあ知っていた	14.4	22.4	7.0
3	言葉だけは聞いたことがある	24.8	25.5	24.2
4	まったく知らなかった	55.4	43.3	66.7
合計		100.00	100.00	100.00

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	6.5	4.3	5.5	6.2	4.2	5.6
2	12.8	14.7	13.6	13.8	15.3	15.3
3	22.9	21.7	22.6	25.8	23.9	28.7
4	57.8	59.4	58.3	54.1	56.6	50.4
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

問 15 環境や社会に関わる問題などに取り組む企業の社会的責任(CSR)についておたずねします。次のうち、あなたのお考えに沿うものをすべて選んでください。

【複数回答】

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	CSRは企業経営が適切に行われるための基本であり、企業は率先して取り組むべきだ	20.2	23.7	17.0
2	CSRに積極的に取り組んでいる企業には好感が持てる	25.1	26.0	24.3
3	多くの企業がCSRに取り組めば、経済全体の発展や成長にもつながる	20.4	19.3	21.4
4	企業は利益を追求することが目的なので、CSRは法令や規制の範囲でやればよい	5.7	7.9	3.6
5	CSRは企業のイメージアップ活動に過ぎないので、特に評価する必要はない	4.5	6.1	3.0
6	CSRに取り組む余裕があるなら、製品やサービスの価格を下げたい	3.9	4.7	3.3
7	その他 ()	0.1	0.0	0.1
8	CSRについてはよくわからない	54.2	49.4	58.8

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	11.8	12.1	14.4	16.8	21.2	33.9
2	16.1	16.7	20.9	22.8	27.2	36.6
3	12.6	14.0	16.8	16.9	20.8	31.6
4	7.7	5.5	5.8	5.4	5.3	5.2
5	4.5	6.2	6.5	4.0	4.4	2.7
6	4.7	3.8	4.2	2.9	4.4	3.9
7	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.2
8	64.3	63.5	57.8	56.8	51.3	42.4
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

問 16 あなたは、あなたや家族が払った公的年金の保険料の一部が積み立てられ、株式や債券などに投資されて運用されることを、どの程度知っていましたか。

【単一回答】

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	よく知っている	9.5	14.8	4.6
2	まあ知っている	26.0	29.4	22.9
3	聞いたことはある	21.6	19.5	23.6
4	知らなかった	42.9	36.4	49.0
合計		100.00	100.00	100.00

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	4.8	6.8	6.7	8.1	10.6	15.1
2	14.2	18.0	20.9	23.2	32.7	36.8
3	18.0	17.4	20.2	21.9	25.0	24.2
4	62.9	57.9	52.1	46.8	31.6	23.8
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

問 17 現在では、あなたや家族が払った公的年金の保険料を含む積立金の約半分が国内や外国の株式に投資されています。株式投資に関する次のような考え方について、あなたはどのように思いますか。

【項目ごとに単一回答】

(1) 短期的にはともかく長期的には、経済の成長・発展に伴って投資収益の獲得を期待できる

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	その通りだと思う	5.4	8.0	2.9
2	どちらかといえばそう思う	28.5	30.7	26.6
3	どちらかといえばそう思わない	17.7	17.8	17.6
4	まったくそう思わない	7.8	8.6	7.1
5	わからない	40.6	35.0	45.8
合計		100.00	100.00	100.00

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	6.0	5.8	4.9	3.6	3.5	7.4
2	22.7	23.0	26.3	26.5	32.3	34.7
3	18.9	16.0	16.7	17.4	18.1	18.6
4	9.8	9.1	8.1	6.7	8.4	6.4
5	42.6	46.1	44.1	45.8	37.6	32.9
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

(2) 個別の企業では倒産の可能性などを含めリスクは大きいですが、多くの銘柄に分散投資することでかなりの程度リスクを抑制できる

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	その通りだと思う	7.4	9.3	5.6
2	どちらかといえばそう思う	32.0	34.0	30.1
3	どちらかといえばそう思わない	15.9	16.4	15.4
4	まったくそう思わない	6.2	7.3	5.2
5	わからない	38.5	33.0	43.7
合計		100.00	100.00	100.00

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	7.7	8.7	8.2	6.3	4.9	8.1
2	25.6	23.9	28.3	27.5	35.2	42.4
3	16.8	15.9	15.4	17.2	16.2	14.9
4	9.2	8.9	6.6	5.3	7.1	3.3
5	40.8	42.6	41.5	43.7	36.7	31.2
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

(3) 株主が投資先企業と建設的な対話をすることで、企業価値の向上に寄与できる

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	その通りだと思う	4.9	6.8	3.1
2	どちらかといえばそう思う	29.4	30.4	28.4
3	どちらかといえばそう思わない	17.6	19.9	15.6
4	まったくそう思わない	6.2	6.9	5.4
5	わからない	41.9	35.9	47.5
合計		100.00	100.00	100.00

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	6.1	5.4	4.5	3.3	3.8	6.0
2	23.2	23.3	26.6	26.3	28.1	39.9
3	17.8	17.2	17.7	18.1	19.7	16.3
4	9.1	7.6	5.5	5.9	6.9	4.3
5	43.9	46.4	45.7	46.3	41.6	33.5
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

問 18 あなたや家族が払った公的年金の保険料を含む積立金の一部を株式に投資することについて、どのように思いますか。あなたの考えに沿うものを1つ選んでください。

【単一回答】

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	公的年金の積立金は株式に重点的に投資すべきだ	3.8	5.8	1.9
2	債券などの他の種類の資産と組み合わせた分散投資の一環なら、株式に投資してもかまわない	25.7	30.1	21.7
3	株式には投資しない方がよいと思うが、今日のような低金利下ではやむを得ない	14.8	13.9	15.7
4	公的年金の積立金は株式に投資するべきではない	11.7	10.7	12.7
5	その他（ ）	0.1	0.2	0.1
6	わからない	43.8	39.3	48.0
合計		100.0 0	100.0 0	100.0 0

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	6.1	4.4	3.8	3.4	3.3	2.9
2	16.6	19.8	23.5	22.6	29.4	34.3
3	11.6	12.2	12.1	13.9	16.2	19.2
4	5.8	8.9	9.5	10.8	15.5	15.9
5	0.1	0.4	0.1	0.1	0.2	0.0
6	59.7	54.3	51.0	49.1	35.4	27.7
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

問 19 国連事務総長の呼びかけにより 2006 年に取りまとめられた責任投資原則 (PRI) では、投資のプロセスに環境や社会、企業の統治といった ESG の課題を組み込むこと、活動的な株式所有者となって所有方針等に ESG 問題を組み入れることなどを宣言しています。世界の多くの機関投資家が署名しており、日本の公的年金積立金の運用を行う GPIF (※) も 2015 年 9 月にこれに署名しました。

※ 「GPIF」は、「年金積立金管理運用独立行政法人」の略称です。

(1) あなたは、「責任投資原則(PRI)」を知っていましたか。

【単一回答】

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	よく知っていた	1.4	2.1	0.7
2	まあ知っていた	7.0	10.3	4.0
3	聞いたことはある	12.2	16.5	8.2
4	知らなかった	79.4	71.1	87.1
合計		100.00	100.00	100.00

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	3.8	2.1	1.9	1.0	0.2	0.4
2	8.5	9.9	6.5	6.1	6.0	6.4
3	12.4	9.7	11.7	12.2	12.4	13.8
4	75.3	78.3	79.9	80.6	81.4	79.5
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

(2) あなたは、この考えや取り組みをどのように思いますか。

【単一回答】

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	とてもよい	3.0	4.0	2.1
2	まあよい	23.8	28.9	19.1
3	あまりよくない	7.3	8.2	6.4
4	まったくよくない	4.3	5.4	3.2
5	その他	0.1	0.0	0.1
6	わからない	61.5	53.4	69.1
合計		100.00	100.00	100.00

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	4.1	3.8	3.2	2.5	0.9	3.5
2	21.4	19.7	21.5	20.3	25.7	29.8
3	8.9	7.9	7.7	7.7	5.8	6.6
4	5.1	5.4	4.5	3.4	4.6	3.5
5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2
6	60.4	63.2	63.1	66.1	63.1	56.4
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

問 20 あなたや家族が払った保険料の一部も含まれる公的年金の積立金で、環境や社会、企業の統治（コーポレート・ガバナンス）を考慮した投資(ESG 投資)をすることについて、おろかがいします。あなたは、次のような意見や考えをどう思いますか。

【項目ごとに単一回答】

(1) 自分や家族の払った保険料は、環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどの取り組みを支援するよう投資してほしい。

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	そう思う	5.4	7.0	3.9
2	どちらかといえばそう思う	29.6	30.4	29.0
3	どちらかといえばそう思わない	13.0	14.9	11.1
4	そう思わない	7.5	9.0	6.2
5	わからない	44.5	38.7	49.9
合計		100.00	100.00	100.00

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	4.8	4.4	4.9	4.6	5.1	7.2
2	24.0	25.0	25.4	25.7	32.1	38.6
3	14.1	13.9	13.6	12.7	14.4	10.9
4	8.8	7.9	7.4	7.3	7.5	7.0
5	48.3	48.8	48.7	49.7	40.9	36.4
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

(2) 自分や家族の払った保険料は、環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどに後ろ向きの企業には投資しないようにしてほしい。

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	そう思う	10.0	10.5	9.4
2	どちらかといえばそう思う	29.1	29.9	28.4
3	どちらかといえばそう思わない	11.4	13.5	9.4
4	そう思わない	6.0	7.8	4.4
5	わからない	43.4	38.2	48.3
合計		100.00	100.00	100.00

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	7.0	7.1	7.8	7.8	10.2	15.5
2	20.2	24.1	25.0	26.4	31.2	39.1
3	17.0	13.4	11.9	11.3	12.6	6.8
4	7.5	9.2	6.7	5.9	4.4	4.3
5	48.3	46.1	48.5	48.5	41.6	34.3
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

(3) 年金のような長期資金では、投資において環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどを考慮することは合理的だ。

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	そう思う	6.0	6.9	5.1
2	どちらかといえばそう思う	28.8	31.1	26.6
3	どちらかといえばそう思わない	12.3	14.6	10.1
4	そう思わない	5.7	7.4	4.2
5	わからない	47.3	40.0	54.0
合計		100.00	100.00	100.00

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	6.7	4.7	4.8	5.1	4.9	8.3
2	23.2	22.4	24.7	24.6	30.5	39.0
3	13.6	14.2	12.7	11.3	13.5	10.3
4	8.0	7.8	5.8	5.8	4.6	4.1
5	48.6	51.0	51.9	53.2	46.5	38.4
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

(4) 年金の積立金は将来の年金の支払いだけを考慮して運用すべきであり、環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどを考えることは、これに関係がないので、慎重であるべきだ。

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	そう思う	5.5	6.5	4.6
2	どちらかといえばそう思う	21.5	22.2	20.9
3	どちらかといえばそう思わない	18.5	20.6	16.5
4	そう思わない	8.8	11.1	6.7
5	わからない	45.7	39.6	51.3
合計		100.00	100.00	100.00

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	5.8	5.9	4.5	5.4	5.8	5.6
2	20.2	18.1	19.5	20.2	22.1	25.8
3	18.5	16.6	16.4	15.7	20.8	21.3
4	7.8	8.4	8.1	7.0	7.7	11.8
5	47.7	51.0	51.5	51.7	43.6	35.5
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

(5) 環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどを考慮して投資先を選定しても、運用成績には結びつかない。

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	そう思う	3.8	4.8	2.9
2	どちらかといえばそう思う	19.6	21.4	18.0
3	どちらかといえばそう思わない	18.4	21.2	15.9
4	そう思わない	8.0	10.4	5.8
5	わからない	50.2	42.3	57.5
合計		100.00	100.00	100.00

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	4.7	4.1	4.0	3.5	3.8	3.3
2	16.9	17.5	16.5	18.7	21.2	23.6
3	18.6	17.4	16.6	16.5	19.9	20.5
4	8.4	8.5	7.1	6.6	6.2	10.1
5	51.4	52.6	55.8	54.6	48.9	42.4
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

(6) 公的な資金は企業経営に影響を与えるべきではない。

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	そう思う	6.6	7.5	5.8
2	どちらかといえばそう思う	22.6	22.9	22.3
3	どちらかといえばそう思わない	16.2	19.0	13.7
4	そう思わない	8.0	10.5	5.6
5	わからない	46.6	40.2	52.5
合計		100.00	100.00	100.00

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	4.7	6.3	5.1	6.3	8.8	7.6
2	18.9	18.8	21.7	21.0	21.9	28.1
3	18.2	16.1	13.6	15.8	18.6	16.1
4	8.1	9.1	8.2	5.7	6.2	9.7
5	50.1	49.6	51.4	51.1	44.5	38.6
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

問 21 前問を踏まえ、あなたは、あなたや家族が払った保険料の一部が含まれ、将来受け取る年金の財源になる公的年金の積立金で、環境や社会、企業の統治（コーポレート・ガバナンス）を考慮した投資(ESG 投資)をすることについて、どのように希望しますか。

【単一回答】

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	してほしい	3.3	4.6	2.2
2	どちらかといえばしてほしい	23.8	27.0	20.9
3	どちらかといえばしてほしくない	16.5	17.1	15.9
4	してほしくない	9.5	10.6	8.4
5	わからない	46.9	40.7	52.6
合計		100.00	100.00	100.00

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	2.8	3.9	3.6	2.5	2.2	4.3
2	21.0	18.7	20.9	20.4	25.2	31.0
3	18.6	15.9	13.6	15.8	17.5	17.6
4	8.0	10.3	10.0	8.0	10.2	9.9
5	49.6	51.1	51.8	53.3	44.9	37.2
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

問 22 企業の中には独自で企業年金を実施するところがあります。企業年金の一つである確定給付企業年金(DB)では、基本的に企業ごとに積立金の運用を行っています。このような企業年金で、環境や社会、企業の統治（コーポレート・ガバナンス）を考慮した投資(ESG 投資)をすることについて、次のような意見や考えをどう思いますか。企業年金へのご加入の有無にかかわらず、一般的なお考えとしてお答えください。

【項目ごとに単一回答】

(1) 企業年金の積立金運用では、環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどの取り組みを支援すべきだ。

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	そう思う	5.1	7.0	3.3
2	どちらかといえばそう思う	28.0	28.8	27.2
3	どちらかといえばそう思わない	12.9	15.4	10.6
4	そう思わない	7.4	8.9	6.1
5	わからない	46.6	39.9	52.8
合計		100.00	100.00	100.00

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	5.4	4.8	4.6	4.0	4.6	6.4
2	23.9	21.2	23.5	24.2	27.2	39.1
3	13.2	14.5	13.2	12.6	15.5	10.5
4	9.5	10.1	7.7	7.5	6.4	5.4
5	48.0	49.4	51.0	51.7	46.2	38.6
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

(2) 企業年金の積立金は、環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどに後ろ向きの企業に投資されないようにすべきだ。

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	そう思う	7.4	8.6	6.2
2	どちらかといえばそう思う	29.0	30.1	27.9
3	どちらかといえばそう思わない	11.9	13.7	10.3
4	そう思わない	6.3	8.3	4.5
5	わからない	45.4	39.3	51.1
合計		100.00	100.00	100.00

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	6.7	5.3	7.5	5.5	6.6	10.3
2	21.2	21.6	22.6	26.6	30.3	41.5
3	15.6	15.0	12.5	11.1	13.3	7.9
4	8.4	9.6	7.0	5.3	4.9	4.7
5	48.2	48.5	50.4	51.4	44.9	35.7
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

(3) 企業年金の積立金は、主に企業が拠出したものなので、その企業の社会的責任（CSR）に関する方針に沿った運用をすべきだ。

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	そう思う	5.4	6.9	4.0
2	どちらかといえばそう思う	29.4	30.1	28.6
3	どちらかといえばそう思わない	12.4	15.7	9.4
4	そう思わない	5.8	7.4	4.4
5	わからない	47.0	39.9	53.6
合計		100.00	100.00	100.00

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	7.4	5.5	4.8	3.4	5.5	5.8
2	21.9	22.7	24.8	27.5	27.4	41.7
3	15.1	13.5	11.8	11.2	16.2	9.7
4	7.5	8.5	6.4	4.9	3.5	5.2
5	48.2	49.8	52.1	53.0	47.3	37.6
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

(4) 企業年金の積立金は、将来の年金の支払いだけを考慮して運用すべきであり、環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどを考えることは、労使から明確な意思表示がない限り、慎重であるべきだ。

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	そう思う	6.0	7.0	5.1
2	どちらかといえばそう思う	23.8	24.0	23.6
3	どちらかといえばそう思わない	16.1	19.0	13.4
4	そう思わない	7.2	10.2	4.4
5	わからない	46.9	39.8	53.6
合計		100.00	100.00	100.00

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	6.8	5.5	4.3	5.4	5.8	7.6
2	20.7	17.9	21.9	21.3	27.0	29.3
3	14.8	17.6	13.6	14.7	16.2	18.4
4	8.7	9.0	7.5	5.9	5.8	7.0
5	49.0	50.0	52.7	52.7	45.4	37.8
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

(5) 企業年金の積立金は、企業の労働者の老後の生活に充てられる資金なので、運用のし方も労働者の意見をよく聞いて決めるべきだ。

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	そう思う	9.1	9.1	9.1
2	どちらかといえばそう思う	29.8	29.4	30.1
3	どちらかといえばそう思わない	12.0	15.4	8.9
4	そう思わない	5.4	6.8	4.0
5	わからない	43.8	39.4	47.9
合計		100.00	100.00	100.00

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	9.9	9.7	6.6	9.2	9.5	9.7
2	22.6	21.9	24.8	24.9	31.6	42.4
3	13.9	13.5	12.7	11.7	13.3	9.3
4	7.1	7.5	6.2	4.9	4.2	3.9
5	46.4	47.3	49.7	49.4	41.4	34.7
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

(6) 企業年金の積立金は、民間の資金なので、政府が運用に口出しすべきではない。

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	そう思う	8.5	9.5	7.6
2	どちらかといえばそう思う	25.0	26.2	23.8
3	どちらかといえばそう思わない	15.4	17.9	13.0
4	そう思わない	6.5	7.7	5.3
5	わからない	44.7	38.6	50.3
合計		100.00	100.00	100.00

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	5.1	6.9	5.4	8.4	11.5	11.4
2	20.7	20.3	22.7	23.1	26.1	31.4
3	18.6	14.5	14.0	14.5	16.8	14.9
4	8.0	9.0	6.8	4.9	4.6	6.2
5	47.6	49.3	51.0	49.1	40.9	36.0
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

問 23 前問を踏まえ、あなたは、企業が実施する企業年金で、環境や社会、企業の統治（コーポレート・ガバナンス）を考慮した投資(ESG 投資)をすることについて、どのように思いますか。企業年金に加入されていない方も、企業年金への希望としてお答えください。

【単一回答】

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	してほしい	3.9	5.3	2.6
2	どちらかといえばしてほしい	26.3	28.4	24.3
3	どちらかといえばしてほしくない	14.8	16.4	13.3
4	してほしくない	7.9	9.2	6.7
5	わからない	47.1	40.6	53.1
合計		100.00	100.00	100.00

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	4.0	3.3	3.4	3.1	3.3	5.4
2	22.9	21.6	22.8	23.9	26.8	33.7
3	15.2	14.3	13.1	13.3	17.3	15.5
4	7.5	11.2	8.3	7.3	8.2	6.4
5	50.4	49.6	52.3	52.3	44.5	39.0
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

問 24 企業年金の中には、加入者が運用の指図をするタイプの年金（企業型確定拠出年金といいます）があります。また、個人で任意で加入できる個人型確定拠出年金（iDeCo（イデコ））もあります。あなたは、確定拠出年金を通じて、環境や社会、企業の統治（コーポレート・ガバナンス）を考慮した投資(ESG 投資)をすることについて、どのように思いますか。現在、確定拠出年金に加入していない方も、仮にご自分がご自身の積立金の運用を指図する立場になった場合を想像してお答えください。

【単一回答】

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	積極的にしたい	4.6	5.7	3.6
2	少しはしたい	25.6	27.7	23.6
3	あまりしたくない	18.0	18.7	17.4
4	したくない	9.3	10.3	8.4
5	わからない	42.4	37.6	46.9
合計		100.00	100.00	100.00

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	4.3	3.9	5.3	3.4	3.5	6.0
2	23.2	23.3	23.9	24.3	25.0	30.2
3	16.1	18.1	14.9	17.8	19.5	20.3
4	8.2	10.6	10.0	7.1	11.3	8.9
5	48.3	44.1	45.9	47.3	40.7	34.5
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

問 25 あなたは、公的年金、企業年金をあわせた日本の年金資金による ESG 投資（環境や社会、コーポレート・ガバナンスを考慮した投資）について、これからどのようにしていくべきだと思いますか。

【単一回答】

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	積極的に取り組むべきだ	6.3	7.9	4.7
2	徐々に取り組んでいくべきだ	21.5	23.3	19.7
3	否定はしないが、控えめでよい	21.0	22.2	19.9
4	必要ない	7.2	7.9	6.6
5	その他	0.1	0.1	0.2
6	わからない	44.0	38.5	49.0
合計		100.00	100.00	100.00

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	4.5	4.3	5.6	5.1	5.1	9.9
2	19.9	18.5	19.3	18.9	22.8	26.0
3	17.0	20.4	18.3	19.1	25.4	23.4
4	6.4	8.7	8.0	5.4	10.0	5.8
5	0.0	0.2	0.3	0.0	0.0	0.2
6	52.1	47.8	48.5	51.4	36.7	34.7
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

問 26 グローバル化が進む現代社会では、国境を越えて影響をもたらす国際的課題について、より一層国際社会が団結して取り組む必要があり、2015年に国連は持続可能な開発目標（SDGs）を定め、2030年までの目標達成を目指し、貧困や不平等、暴力等の社会問題、気候変動等の環境問題に政府、企業、市民団体、個人等がそれぞれ取り組みを行うよう求めています。あなたは、SDGsについてどの程度関心を持っていますか。

【単一回答】

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	大いに関心がある	6.7	7.5	6.0
2	まあ関心がある	36.7	35.5	37.9
3	あまり関心はない	29.4	29.0	29.8
4	まったく関心がない	27.1	28.0	26.3
合計		100.00	100.00	100.00

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	7.4	4.8	6.8	5.0	4.9	9.5
2	31.5	31.7	30.2	31.1	40.5	47.5
3	22.9	28.2	30.9	33.4	33.8	26.9
4	38.2	35.3	32.0	30.5	20.8	16.1
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

問 27 投資は、経済的な利益を得るために行いますが、近年、社会的な利益も重視すべきとの考え方から「インパクト投資」が提唱されています。「インパクト投資」とは、収益を確保しつつ、環境問題や社会問題の解決も追求するという考え方の投資です。インパクト投資は、国連で持続可能な開発目標（SDGs）が採択されたことを機に、注目度が高まっています。

(1) あなたは、「インパクト投資」を知っていましたか。

【単一回答】

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	よく知っていた	1.2	2.0	0.5
2	まあ知っていた	6.6	9.0	4.3
3	聞いたことはある	13.3	17.3	9.5
4	知らなかった	78.9	71.7	85.6
合計		100.00	100.00	100.00

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	3.4	1.7	1.9	0.8	0.2	0.4
2	10.1	10.5	7.5	6.2	5.1	3.3
3	13.5	11.2	11.7	10.9	13.9	16.5
4	73.0	76.6	79.0	82.0	80.8	79.8
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

(2) あなたは、「インパクト投資」についてどのように思いますか。

【単一回答】

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	とてもよい	4.7	5.3	4.2
2	まあよい	20.0	22.2	18.0
3	あまりよくない	7.4	10.0	5.0
4	まったくよくない	3.9	5.3	2.6
5	その他（ ）	0.1	0.0	0.1
6	わからない	63.8	57.1	70.0
合計		100.00	100.00	100.00

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	5.7	3.1	3.8	3.3	3.3	7.6
2	20.9	20.2	17.7	16.2	20.8	23.1
3	9.7	9.5	7.7	7.8	8.2	4.5
4	4.4	5.8	5.5	3.7	2.9	2.3
5	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.2
6	59.4	61.5	65.1	68.9	64.8	62.4
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

(3) 年金の積立金の運用では、長期的な投資収益の確保を最優先にしていますが、あなたは、年金の積立金で、環境問題や社会問題の解決を考慮することについてどのように思いますか。

公的年金、企業年金（企業ごとに積立金の運用を行う確定給付企業年金など）、確定拠出年金（加入者が自身の積立金の運用の指図をする）のそれぞれについてお答えください。これらの年金に加入されていない方も一般的な希望としてお考えください。

【公的年金、企業年金、確定拠出年金ごとに単一回答】

公的年金

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	積極的にしてほしい	6.2	7.4	5.1
2	どちらかというとしてほしい	10.8	13.4	8.4
3	投資収益が確保できるのなら、してほしい	29.9	30.0	29.8
4	どちらかというとしてほしくない	9.6	8.6	10.5
5	全くしてほしくない	4.8	5.6	4.1
6	その他（ ）	0.0	0.0	0.0
7	わからない	38.6	35.0	42.1
合計		100.00	100.00	100.00

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	6.7	5.2	6.1	5.2	5.5	7.8
2	12.1	11.3	9.1	10.5	10.0	11.8
3	24.9	25.0	27.0	27.2	33.2	36.4
4	7.5	7.9	7.9	8.8	12.4	11.4
5	4.0	6.2	5.7	4.2	4.0	4.8
6	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0
7	44.9	44.5	44.2	44.1	35.0	27.7
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

企業年金（企業ごとに積立金の運用を行う確定給付企業年金など）

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	積極的にしてほしい	6.1	7.6	4.7
2	どちらかというとしてほしい	10.9	12.6	9.3
3	投資収益が確保できるのなら、してほしい	31.8	31.5	32.0
4	どちらかというとしてほしくない	7.7	7.5	7.8
5	全くしてほしくない	4.1	4.6	3.6
6	その他（ ）	0.0	0.0	0.0
7	わからない	39.5	36.2	42.5
合計		100.00	100.00	100.00

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	6.1	5.0	7.0	4.4	5.3	7.6
2	12.2	10.6	9.2	11.0	11.5	11.0
3	25.3	26.8	28.0	28.9	34.1	40.3
4	7.8	7.1	6.7	7.1	10.2	7.4
5	3.7	5.5	4.4	3.1	4.0	4.1
6	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0
7	44.9	44.8	44.6	45.5	35.0	29.7
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

確定拠出年金（加入者が自身の積立金の運用の指図をする）

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	積極的にしてほしい（したい）	5.3	6.9	3.7
2	どちらかというとしてほしい（したい）	10.4	12.5	8.5
3	投資収益が確保できるのなら、してほしい（したい）	30.6	30.0	31.2
4	どちらかというとしてほしくない（したくない）	7.4	7.8	7.0
5	全くしてほしくない（したくない）	4.4	4.7	4.1
6	その他（ ）	0.0	0.1	0.0
7	わからない	41.9	38.0	45.5
合計		100.00	100.00	100.00

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	6.5	5.5	5.9	5.1	4.0	5.0
2	12.5	10.7	9.4	9.1	8.8	11.8
3	25.0	25.6	28.7	28.1	33.4	37.0
4	7.2	6.8	5.9	7.1	9.1	7.9
5	3.8	5.7	4.5	4.1	3.8	4.5
6	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0
7	44.9	45.7	45.6	46.5	40.9	33.7
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

4 前回調査との比較

以下では前回調査との比較が可能なものに限って、調査項目ごとに、回答の集計結果を示す。

4-1 年齢10歳階層別、性別回答者数

	人数		構成比 (%)	
	前回	今回	前回	今回
(全体)				
20～29歳	672	704	11.9	11.8
30～39歳	848	812	15.0	13.6
40～49歳	1000	1055	17.7	17.6
50～59歳	841	961	14.9	16.1
60～69歳	492	452	17.5	15.1
70歳以上	647	516	22.9	25.9
合計	4500	4500	100.0	100.0
(うち男性)				
20～29歳	342	359	12.6	12.5
30～39歳	429	411	15.9	14.3
40～49歳	504	532	18.6	18.5
50～59歳	419	479	15.5	16.6
60～69歳	239	221	17.7	15.3
70歳以上	267	220	19.7	22.9
合計	2200	2222	100.0	100.0
(うち女性)				
20～29歳	330	345	11.3	11.1
30～39歳	419	401	14.3	12.9
40～49歳	496	523	16.9	16.9
50～59歳	422	482	14.4	15.5
60～69歳	253	231	17.3	14.9
70歳以上	380	296	25.9	28.6
合計	2300	2278	100.0	100.0

(注) 人数は実際の抽出人数、構成比は分析のため今回調査では60～69歳の人数を2倍に70歳以上を3倍した数値を表示。
 前回調査の構成比は60～69歳の人数及び70歳以上の人数をいずれも2倍した数値を表示。

4-2 前回調査と質問が重複する項目についての集計結果の比較¹²

問 1 あなたのご職業をおたずねします。次の中から最もあてはまるものを 1 つ選んでください。

【単一回答】

〈前回調査では問 2、選択肢 3 は「正社員」、選択肢 8 は「無職」〉

		前回	今回
		%	%
1	自営業・自由業・家族従業員	8.4	6.4
2	会社・団体の経営者または役員	2.8	1.4
3	<u>会社・団体の正規職員</u>	22.8	25.7
4	公務員	2.7	2.8
5	契約社員・派遣社員・嘱託	5.6	5.9
6	パート・アルバイト	12.0	14.8
7	学生	1.7	1.3
8	<u>無職（専業主婦・主夫を含む）</u>	44.0	41.7
合計		100.00	100.00

問 2 お子様はいらっしゃいますか。いらっしゃる場合、その人数をお教えてください。

【単一回答】

〈前回調査では問 4、人数は質問せず〉

		前回	今回
		%	%
1	いる	57.7	55.8
2	いない	42.3	44.2
合計		100.00	100.00

¹² 下線部は前回調査からの変更箇所（表現の変更を含む）を示す。

問 3 国民年金と厚生年金を公的年金といいます。あなたの公的年金の加入や受給の状況についておたずねします。次のうち、あなたがあてはまるものをすべてお答えください。

【複数回答、ただし、1、2及び3の中で2つ以上は選べず、また、7及び8は排他】

《前回調査は問 5、前回調査の選択肢「年金に加入しておらず、受給もしていない」「基礎年金を受給している」「厚生年金を受給している」「共済年金を受給している」を削除して今回調査で「老齢年金を受給している」「障害年金を受給している」「遺族年金を受給している」「これまで公的年金に加入したことがない」「自分が上記のどれに該当するのかわからない」を追加》

		前回	今回
		%	%
1	<u>国民年金に加入し、国民年金保険料を支払っているか、その免除または猶予を受けている（第1号被保険者）</u>	28.3	20.5
2	<u>厚生年金に加入し、給与から厚生年金保険料を支払っている（第2号被保険者）</u>	30.8	30.9
3	厚生年金に加入する配偶者の被扶養者である（第3号被保険者）	9.2	10.8
4	老齢年金を受給している	-----	23.0
5	障害年金を受給している	-----	1.7
6	遺族年金を受給している	-----	2.0
7	<u>これまで公的年金に加入したことはない</u>	-----	1.3
8	自分が上記のどれに該当するのかわからない	-----	13.4

問 4 企業によっては、従業員のために企業年金を実施するところがあります。また、個人で任意で加入できるものとして、個人型確定拠出年金（iDeCo（イデコ））や国民年金基金があります。次のうち、あなたがあてはまるものをすべてお答えください。

【複数回答、ただし、8及び9は排他】

≪前回調査は問 6、前回調査の選択肢「上記 1.～4.のどれかから一時金を受給した」を削除して今回調査で「自分が上記 1～4 のどれかに加入したことがあるかどうかわからない」を追加≫

		前回	今回
		%	%
1	確定拠出型（あなたが運用の指図をするタイプ）の企業年金に加入している	9.0	8.4
2	それ以外の企業年金（確定給付企業年金、厚生年金基金など）に加入している	12.0	9.9
3	個人型確定拠出年金（iDeCo）に加入している	2.5	4.7
4	国民年金基金に加入している	8.5	7.2
5	上記 1～4 のどれかから受給している	16.1	15.5
6	上記 1～4 のどれかに加入したことがあるが、受給したことはない	4.7	3.6
7	上記 1～4 のどれかから受給したことがあるが、今は受給していない	0.8	1.8
8	上記 1～4 のどれにも加入したことはない	49.4	27.2
9	自分が上記 1～4 のどれかに加入したことがあるかどうかわからない	-----	27.7

問 5 あなたの昨年の年収（税込）はおおよそいくらでしたか。

【単一回答】

≪前回調査は問 7、前回調査の選択肢「200 万円未満」を今回調査では「無収入」と「有収入だが 200 万円未満」に分割≫

		前回	今回
		%	%
1	無収入	49.0	15.8
2	有収入だが 200 万円未満		35.2
3	200 万円以上～400 万円未満	27.7	26.9
4	400 万円以上～600 万円未満	12.0	11.4
5	600 万円以上～800 万円未満	6.2	5.6
6	800 万円以上～1,000 万円未満	2.7	2.7
7	1,000 万円以上～1,500 万円未満	1.3	1.4
8	1,500 万円以上	1.2	1.0
合計		100.00	100.00

問 6 あなたの保有する金融資産（現金、預貯金、株式、債券、投資信託など）の額は全部でおおよそどれくらいですか。不動産は除いてお答えください。

【単一回答】

≪前回調査は問 8、前回調査の選択肢「200 万円未満」を今回調査では「50 万円未満」「50 万円以上～100 万円未満」「100 万円以上～200 万円未満」に 3 分割≫

		前回	今回
		%	%
1	50 万円未満	45.4	33.9
2	50 万円以上～100 万円未満		8.6
3	100 万円以上～200 万円未満		8.4
4	200 万円以上～500 万円未満	18.0	14.2
5	500 万円以上～1,000 万円未満	13.7	12.5
6	1,000 万円以上～2,000 万円未満	10.5	10.3
7	2,000 万円以上～5,000 万円未満	8.3	8.4
8	5,000 万円以上～1 億円未満	2.9	2.4
9	1 億円以上	1.2	1.3
合計		100.00	100.00

問 7 あなたは、これまで次のような投資をした経験がありますか。あてはまるものをすべて選んでください。

【複数回答、ただし、8 は排他】

≪前回調査は問 10、今回調査では「株式と債券の両方に投資する投資信託」の選択肢を新たに追加≫

		前回	今回
		%	%
1	個別の企業の株式	24.9	22.9
2	株式に投資する投資信託（株式投資信託または ETF）	15.5	15.4
3	個別の企業の社債	4.4	3.0
4	国債又は地方債（個人向けを含みます）	9.0	6.9
5	国債、地方債または社債に投資する投資信託（公社債投資信託）	3.3	3.3
6	外貨建ての債券またはこれらに投資する投資信託	3.0	5.0
7	株式と債券の両方に投資する投資信託	-----	6.6
8	上記のどれも経験がない	63.7	65.3

問 11 いくつかの企業の製品（性能はほぼ同じ）の中から購入を検討する場面を想像してください。その中に次のような企業がある場合、あなたはその情報を製品選択の際にどの程度考慮すると思いますか。

【項目ごとに単一回答】

《前回調査は問 12》

(1) 大気中への二酸化炭素の排出を極力抑制するよう努力をしている企業

		前回	今回
		%	%
1	かなり高くてもその企業の製品を選ぶ	3.3	3.4
2	かなりでなく、少し高いだけならその企業の製品を選ぶ	23.1	20.5
3	値段が変わらなければその企業の製品を選ぶ	43.4	44.3
4	この情報は製品選択では考慮しない	30.2	31.8
合計		100.00	100.00

(2) 省エネやリサイクルを重視するなど、環境に及ぼす影響が少ない製品を提供している企業

		前回	今回
		%	%
1	かなり高くてもその企業の製品を選ぶ	3.8	2.6
2	かなりでなく、少し高いだけならその企業の製品を選ぶ	23.4	21.1
3	値段が変わらなければその企業の製品を選ぶ	44.6	46.4
4	この情報は製品選択では考慮しない	28.2	29.9
合計		100.00	100.00

(3) 残業を極力減らし、育児休業を取りやすくするなど女性も働きやすい職場環境を整える努力をしている企業

		前回	今回
		%	%
1	かなり高くてもその企業の製品を選ぶ	3.7	3.3
2	かなりでなく、少し高いだけならその企業の製品を選ぶ	21.2	17.4
3	値段が変わらなければその企業の製品を選ぶ	40.8	43.3
4	この情報は製品選択では考慮しない	34.3	36.0
合計		100.00	100.00

(4) 自社だけでなく取引先（海外の取引先を含みます）で、児童労働など人権を無視した劣悪な労働条件が持ち込まれないよう努力している企業

		前回	今回
		%	%
1	かなり高くても <u>その企業の製品を選ぶ</u>	3.6	3.2
2	かなりでなく、 <u>少し高いたけならその企業の製品を選ぶ</u>	21.3	19.8
3	値段が変わらなければ <u>その企業の製品を選ぶ</u>	42.7	42.8
4	<u>この情報は製品選択では考慮しない</u>	32.5	34.2
合計		100.00	100.00

(5) 地球環境問題への対応、労働条件の改善、人材戦略、経営の目的などについて分かりやすく公表している企業

		前回	今回
		%	%
1	かなり高くても <u>その企業の製品を選ぶ</u>	4.1	3.6
2	かなりでなく、 <u>少し高いたけならその企業の製品を選ぶ</u>	23.1	20.1
3	値段が変わらなければ <u>その企業の製品を選ぶ</u>	42.4	43.6
4	<u>この情報は製品選択では考慮しない</u>	30.5	32.6
合計		100.00	100.00

(6) 社外取締役を重視する企業

		前回	今回
		%	%
1	かなり高くても <u>その企業の製品を選ぶ</u>	3.3	2.2
2	かなりでなく、 <u>少し高いたけならその企業の製品を選ぶ</u>	19.7	11.8
3	値段が変わらなければ <u>その企業の製品を選ぶ</u>	40.5	34.5
4	<u>この情報は製品選択では考慮しない</u>	36.5	51.5
合計		100.00	100.00

問 12 もし、あなたに十分なお金があるとすると、次のような企業の株式や社債を買いたいと思いますか。

【項目ごとに単一回答】

◀ 前回調査は問 13 ▶

(1) 大気中への二酸化炭素の排出を極力抑制するよう努力をしている企業

		前回	今回
		%	%
1	ぜひ買いたい	6.1	6.6
2	買うことを検討したい	22.0	22.4
3	買うかどうか分からないが考えてみたい	30.2	30.5
4	<u>この情報があるからといって株式や社債の購入を考慮することはない</u>	41.6	40.5
合計		100.00	100.00

(2) 省エネやリサイクルを重視するなど、環境に及ぼす影響が少ない製品を提供している企業

		前回	今回
		%	%
1	ぜひ買いたい	6.8	6.8
2	買うことを検討したい	23.6	22.8
3	買うかどうかわからないが考えてみたい	29.4	30.5
4	この情報があるからといって株式や社債の購入を考えるとはない	40.3	40.0
合計		100.00	100.00

(3) 残業を極力減らし、育児休業を取りやすくするなど女性も働きやすい職場環境を整える努力をしている企業

		前回	今回
		%	%
1	ぜひ買いたい	5.5	5.6
2	買うことを検討したい	21.0	19.7
3	買うかどうかわからないが考えてみたい	30.0	31.8
4	この情報があるからといって株式や社債の購入を考えるとはない	43.5	42.9
合計		100.00	100.00

(4) 自社だけでなく取引先（海外の取引先を含みます）で、児童労働など人権を無視した劣悪な労働条件が持ち込まれないよう努力している企業

		前回	今回
		%	%
1	ぜひ買いたい	5.4	5.9
2	買うことを検討したい	20.6	21.2
3	買うかどうかわからないが考えてみたい	31.1	30.1
4	この情報があるからといって株式や社債の購入を考えるとはない	43.0	42.8
合計		100.00	100.00

(5) 地球環境問題への対応、労働条件の改善、人材戦略、経営の目的などについて分かりやすく公表している企業

		前回	今回
		%	%
1	ぜひ買いたい	6.5	6.3
2	買うことを検討したい	22.8	22.0
3	買うかどうかわからないが考えてみたい	29.4	30.8
4	この情報があるからといって株式や社債の購入を考えるとはない	41.3	41.0
合計		100.00	100.00

(6) 社外取締役を重視する企業

		前回	今回
		%	%
1	ぜひ買いたい	4.7	3.1
2	買うことを検討したい	20.5	13.4
3	買うかどうかわからないが考えてみたい	29.9	28.6
4	この情報があるからといって株式や社債の購入を考えることはない	44.9	54.9
合計		100.00	100.00

問 13 もし、あなたかあなたの親族もしくはあなたの親しい友人が、次のような企業の株式や社債を持っているとすると、どのように感じるとお考えですか。

【項目ごとに単一回答】

《前回調査は問 14》

(1) 大気中への二酸化炭素の排出を抑制する努力をまったくしない企業

		前回	今回
		%	%
1	損益にかかわらず、すぐ手放すべきだ	10.0	7.1
2	損益にもよるが、なるべく手放すべきだ	18.9	17.7
3	手放すことを検討する方がよい	22.6	22.5
4	この情報があるからといって株式や社債に関して特に感じることはない	48.6	52.7
合計		100.00	100.00

(2) 製品の製造や製品自体がエネルギー多消費や使い捨てであるなど、環境への配慮が後回しになっている企業

		前回	今回
		%	%
1	損益にかかわらず、すぐ手放すべきだ	11.0	7.1
2	損益にもよるが、なるべく手放すべきだ	21.0	17.6
3	手放すことを検討する方がよい	21.8	23.5
4	この情報があるからといって株式や社債に関して特に感じることはない	46.3	51.8
合計		100.00	100.00

(3) サービス残業が日常化し労働災害も時々生じているブラック企業

		前回	今回
		%	%
1	損益にかかわらず、すぐ手放すべきだ	18.5	14.6
2	損益にもよるが、なるべく手放すべきだ	17.2	16.5
3	手放すことを検討する方がよい	20.6	20.6
4	この情報があるからといって株式や社債に関して特に感じることはない	43.7	48.3
合計		100.00	100.00

(4) 取引先（海外の取引先を含みます）で、児童労働など人権を無視した劣悪な労働条件があっても、自社とは関係がないとして平然としている企業

		前回	今回
		%	%
1	損益にかかわらず、すぐ手放すべきだ	16.8	13.9
2	損益にもよるが、なるべく手放すべきだ	17.3	16.5
3	手放すことを検討する方がよい	20.8	20.7
4	この情報があるからといって株式や社債に関して特に感じることはない	45.0	48.8
合計		100.00	100.00

(5) 地球環境問題への対応、労働条件の改善、人材戦略、経営の目的などの公表に後ろ向きの企業

		前回	今回
		%	%
1	損益にかかわらず、すぐ手放すべきだ	12.9	9.6
2	損益にもよるが、なるべく手放すべきだ	19.8	18.3
3	手放すことを検討する方がよい	21.8	21.8
4	この情報があるからといって株式や社債に関して特に感じることはない	45.6	50.3
合計		100.00	100.00

(6) 社外取締役は置かないか、置いても形だけの企業

		前回	今回
		%	%
1	損益にかかわらず、すぐ手放すべきだ	11.3	7.2
2	損益にもよるが、なるべく手放すべきだ	18.9	16.0
3	手放すことを検討する方がよい	21.8	19.9
4	この情報があるからといって株式や社債に関して特に感じることはない	48.0	56.9
合計		100.00	100.00

問 14 これまでお答えいただいたような、様々な環境(Environment)や社会(Social)に関する問題、企業の統治(Governance)を考慮して投資を行うことを、それぞれの英語の頭文字をとって、ESG 投資と呼びます。また、これら ESG の事項などに取り組む企業の責任を、企業の社会的責任(英語の頭文字をとって「CSR」)と呼びます。企業の統治はコーポレート・ガバナンスともいいます。あなたは、これらの意味を、どの程度知っていましたか。

【項目ごとに単一回答】

《前回調査は問 14》

(1) ESG 投資

		前回	今回
		%	%
1	よく知っていた	0.8	2.5
2	まあ知っていた	4.2	8.0
3	言葉だけは聞いたことがある	9.3	20.2
4	まったく知らなかった	85.7	69.4
合計		100.00	100.00

(2) CSR (企業の社会的責任)

		全体	男性
		%	%
1	よく知っていた	5.2	4.2
2	まあ知っていた	11.1	12.5
3	言葉だけは聞いたことがある	17.7	20.7
4	まったく知らなかった	66.0	62.6
合計		100.00	100.00

(3) コーポレート・ガバナンス

		前回	今回
		%	%
1	よく知っていた	5.7	5.4
2	まあ知っていた	14.0	14.4
3	言葉だけは聞いたことがある	22.7	24.8
4	まったく知らなかった	57.5	55.4
合計		100.00	100.00

問 15 環境や社会に関わる問題などに取り組む企業の社会的責任(CSR)についておたずねします。次のうち、あなたのお考えに沿うものをすべて選んでください。

【複数回答】

《前回調査は問 16》

		前回	今回
		%	%
1	CSRは企業経営が適切に行われるための基本であり、企業は率先して取り組むべきだ	26.2	20.2
2	CSRに積極的に取り組んでいる企業には好感が持てる	29.6	25.1
3	多くの企業がCSRに取り組めば、経済全体の発展や成長にもつながる	23.3	20.4
4	企業は利益を追求することが目的なので、CSRは法令や規制の範囲でやればよい	5.3	5.7
5	CSRは企業のイメージアップ活動に過ぎないので、特に評価する必要はない	4.0	4.5
6	CSRに取り組む余裕があるなら、製品やサービスの価格を下げたい	2.9	3.9
7	その他 ()	0.1	0.1
8	CSRについてはよくわからない	53.9	54.2

問 16 あなたは、あなたや家族が払った公的年金の保険料の一部が積み立てられ、株式や債券などに投資されて運用されることを、どの程度知っていましたか。

【単一回答】

《前回調査は問 17》

		前回	今回
		%	%
1	よく知っている	13.0	9.5
2	まあ知っている	26.6	26.0
3	聞いたことはある	22.8	21.6
4	知らなかった	37.4	42.9
合計		100.00	100.00

問 19 国連事務総長の呼びかけにより 2006 年に取りまとめられた責任投資原則 (PRI) では、投資のプロセスに環境や社会、企業の統治といった ESG の課題を組み込むこと、活動的な株式所有者となって所有方針等に ESG 問題を組み入れることなどを宣言しています。世界の多くの機関投資家が署名しており、日本の公的年金積立金の運用を行う GPIF (※) も 2015 年 9 月にこれに署名しました。

※ 「GPIF」は、「年金積立金管理運用独立行政法人」の略称です。

《前回調査は問 22》

(2) あなたは、この考えや取り組みをどのように思いますか。

【単一回答】

		前回	今回
		%	%
1	とてもよい	6.1	3.0
2	まあよい	27.7	23.8
3	あまりよくない	9.2	7.3
4	まったくよくない	2.4	4.3
5	その他	0.1	0.1
6	わからない	54.5	61.5
合計		100.00	100.00

問 20 あなたや家族が払った保険料の一部も含まれる公的年金の積立金で、環境や社会、企業の統治 (コーポレート・ガバナンス) を考慮した投資 (ESG 投資) をすることについて、おろかがいします。あなたは、次のような意見や考えをどう思いますか。

【項目ごとに単一回答】

《前回調査は問 23》

(1) 自分や家族の払った保険料は、環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどの取り組みを支援するよう投資してほしい。

		前回	今回
		%	%
1	そう思う	6.5	5.4
2	どちらかといえばそう思う	28.4	29.6
3	どちらかといえばそう思わない	12.6	13.0
4	そう思わない	7.7	7.5
5	わからない	44.8	44.5
合計		100.00	100.00

(2) 自分や家族の払った保険料は、環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどに後ろ向きの企業には投資しないようにしてほしい。

		前回	今回
		%	%
1	そう思う	12.3	10.0
2	どちらかといえばそう思う	27.3	29.1
3	どちらかといえばそう思わない	10.9	11.4
4	そう思わない	6.7	6.0
5	わからない	42.9	43.4
合計		100.00	100.00

(3) 年金のような長期資金では、投資において環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどを考慮することは合理的だ。

		前回	今回
		%	%
1	そう思う	7.0	6.0
2	どちらかといえばそう思う	27.1	28.8
3	どちらかといえばそう思わない	13.6	12.3
4	そう思わない	6.5	5.7
5	わからない	45.8	47.3
合計		100.00	100.00

(4) 年金の積立金は将来の年金の支払いだけを考慮して運用すべきであり、環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどを考えることは、これに関係がないので、慎重であるべきだ。

		前回	今回
		%	%
1	そう思う	7.5	5.5
2	どちらかといえばそう思う	20.3	21.5
3	どちらかといえばそう思わない	18.5	18.5
4	そう思わない	9.7	8.8
5	わからない	43.9	45.7
合計		100.00	100.00

(5) 環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどを考慮して投資先を選定しても、運用成績には結びつかない。

		前回	今回
		%	%
1	そう思う	4.4	3.8
2	どちらかといえばそう思う	19.5	19.6
3	どちらかといえばそう思わない	18.2	18.4
4	そう思わない	8.3	8.0
5	わからない	49.6	50.2
合計		100.00	100.00

(6) 公的な資金は企業経営に影響を与えるべきではない。

		前回	今回
		%	%
1	そう思う	9.9	6.6
2	どちらかといえばそう思う	22.5	22.6
3	どちらかといえばそう思わない	16.3	16.2
4	そう思わない	8.1	8.0
5	わからない	43.2	46.6
合計		100.00	100.00

問 21 前問を踏まえ、あなたは、あなたや家族が払った保険料の一部が含まれ、将来受け取る年金の財源になる公的年金の積立金で、環境や社会、企業の統治（コーポレート・ガバナンス）を考慮した投資(ESG 投資)をすることについて、どのように希望しますか。

【単一回答】

《前回調査は問 24》

		前回	今回
		%	%
1	してほしい	4.6	3.3
2	どちらかといえばしてほしい	26.9	23.8
3	どちらかといえばしてほしくない	15.6	16.5
4	してほしくない	8.5	9.5
5	わからない	44.4	46.9
合計		100.00	100.00

問 22 企業の中には独自で企業年金を実施するところがあります。企業年金の一つである確定給付企業年金(DB)では、基本的に企業ごとに積立金の運用を行っています。このような企業年金で、環境や社会、企業の統治（コーポレート・ガバナンス）を考慮した投資(ESG 投資)をすることについて、次のような意見や考えをどう思いますか。企業年金へのご加入の有無にかかわらず、一般的なお考えとしてお答えください。

【項目ごとに単一回答】

《前回調査は問 25》

(1) 企業年金の積立金運用では、環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどの取組みを支援すべきだ。

		前回	今回
		%	%
1	そう思う	4.9	5.1
2	どちらかといえばそう思う	28.7	28.0
3	どちらかといえばそう思わない	12.7	12.9
4	そう思わない	7.1	7.4
5	わからない	46.6	46.6
合計		100.00	100.00

(2) 企業年金の積立金は、環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどに後ろ向きの企業に投資されないようにすべきだ。

		前回	今回
		%	%
1	そう思う	8.6	7.4
2	どちらかといえばそう思う	28.3	29.0
3	どちらかといえばそう思わない	12.2	11.9
4	そう思わない	5.4	6.3
5	わからない	45.6	45.4
合計		100.00	100.00

- (3) 企業年金の積立金は、主に企業が拠出したものなので、その企業の社会的責任(CSR)に関する方針に沿った運用をすべきだ。

		前回	今回
		%	%
1	そう思う	5.6	5.4
2	どちらかといえばそう思う	30.5	29.4
3	どちらかといえばそう思わない	12.9	12.4
4	そう思わない	4.8	5.8
5	わからない	46.2	47.0
合計		100.00	100.00

- (4) 企業年金の積立金は、将来の年金の支払いだけを考慮して運用すべきであり、環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどを考えることは、労使から明確な意思表示がない限り、慎重であるべきだ。

		前回	今回
		%	%
1	そう思う	6.9	6.0
2	どちらかといえばそう思う	24.1	23.8
3	どちらかといえばそう思わない	17.2	16.1
4	そう思わない	6.3	7.2
5	わからない	45.5	46.9
合計		100.00	100.00

- (5) 企業年金の積立金は、企業の労働者の老後の生活に充てられる資金なので、運用のし方も労働者の意見をよく聞いて決めるべきだ。

		前回	今回
		%	%
1	そう思う	11.0	9.1
2	どちらかといえばそう思う	29.7	29.8
3	どちらかといえばそう思わない	12.0	12.0
4	そう思わない	4.2	5.4
5	わからない	43.1	43.8
合計		100.00	100.00

- (6) 企業年金の積立金は、民間の資金なので、政府が運用に口出しすべきではない。

		前回	今回
		%	%
1	そう思う	11.1	8.5
2	どちらかといえばそう思う	24.6	25.0
3	どちらかといえばそう思わない	14.8	15.4
4	そう思わない	6.4	6.5
5	わからない	43.1	44.7
合計		100.00	100.00

問 23 前問を踏まえ、あなたは、企業が実施する企業年金で、環境や社会、企業の統治（コーポレート・ガバナンス）を考慮した投資(ESG 投資)をすることについて、どのように思いますか。企業年金に加入されていない方も、企業年金への希望としてお答えください。

【単一回答】

《前回調査は問 26》

		前回	今回
		%	%
1	してほしい	4.8	3.9
2	どちらかといえばしてほしい	28.6	26.3
3	どちらかといえばしてほしくない	12.7	14.8
4	してほしくない	6.5	7.9
5	わからない	47.7	47.1
合計		100.00	100.00

問 24 企業年金の中には、加入者が運用の指図をするタイプの年金（企業型確定拠出年金といいますが）があります。また、個人で任意で加入できる個人型確定拠出年金（iDeCo（イデコ））もあります。あなたは、確定拠出年金を通じて、環境や社会、企業の統治（コーポレート・ガバナンス）を考慮した投資(ESG 投資)をすることについて、どのように思いますか。現在、確定拠出年金に加入していない方も、仮にご自分がご自身の積立金の運用を指図する立場になった場合を想像してお答えください。

【単一回答】

《前回調査は問 27》

		前回	今回
		%	%
1	積極的にしたい	4.8	4.6
2	少しはしたい	26.5	25.6
3	あまりしたくない	15.8	18.0
4	したくない	6.8	9.3
5	わからない	46.1	42.4
合計		100.00	100.00

問 25 あなたは、公的年金、企業年金をあわせた日本の年金資金による ESG 投資（環境や社会、コーポレート・ガバナンスを考慮した投資）について、これからどのようにしていきべきだと思いますか。

【単一回答】

《前回調査は問 28》

		前回	今回
		%	%
1	積極的に取り組むべきだ	8.0	6.3
2	徐々に取り組んでいくべきだ	20.4	21.5
3	否定はしないが、控えめでよい	18.2	21.0
4	必要ない	5.8	7.2
5	その他	0.2	0.1
6	わからない	47.4	44.0
合計		100.00	100.00

問 26 グローバル化が進む現代社会では、国境を越えて影響をもたらす国際的課題について、より一層国際社会が団結して取り組む必要があり、2015年に国連は持続可能な開発目標（SDGs）を定め、2030年までの目標達成を目指し、貧困や不平等、暴力等の社会問題、気候変動等の環境問題に政府、企業、市民団体、個人等がそれぞれ取り組みを行うよう求めています。あなたは、SDGsについてどの程度関心を持っていますか。

【単一回答】

		前回	今回
		%	%
1	大いに関心がある	16.8	6.7
2	まあ関心がある	45.0	36.7
3	あまり関心はない	20.7	29.4
4	まったく関心がない	17.5	27.1
合計		100.00	100.00

(参考文献)

- ・ 年金シニアプラン総合研究機構（2012）「一般国民に対する ESG 投資に関するアンケート結果について」年金シニアプラン総合研究機構
- ・ —————（2018）「年金資金による ESG 投資に対する一般国民の意識に関する調査研究」年金シニアプラン総合研究機構

「年金と投資に関する意識調査結果」(R4-1)

令和4年8月

(編集・発行) 公益財団法人 年金シニアプラン総合研究機構

〒108-0074 東京都港区高輪1丁目3番13号 NBF 高輪ビル4階

電話 : 03-5793-9411 (年金シニアプラン総合研究機構 総務企画部 代表)

FAX : 03-5793-9413

URL : <http://www.nensoken.or.jp/>

本書の全部または一部の複写・複製・転載および磁気または光記録媒体への入力等を禁じます。
これらの許諾につきましては年金シニアプラン総合研究機構までご照会ください。